

松山アーバン
デザインセンター
年間報告書

2023

Urban Design Center
Matsuyama
Annual Report



プロジェクトマップ 2023

都市回遊型 urban design week. 2023 まちなか班 P20～P55

松山市の2大交通結節点であるJR松山駅と松山市駅を結ぶエリアをターゲットに回遊の仕掛けを検討。愛媛CATVにらくがき拠点をつくるとともに、エリア内にフォトスポットを設置し、写真を集めてもらう企画を行った。



ココきて！らくがき ココどこ？まち探検



跳んで！歩いて！大手町通りミュージアム
～「かなしきデブ猫ちゃん」マルと巡る～

都市回遊型 urban design week. 2023 JR松山駅班 P20～P55

JR松山駅前の再開発が進んでいる今、大手町通りも変化のときを迎えている。大手町通りのもつポテンシャルを紹介するために、愛媛新聞社前の広場を起点に、大手町通り周辺の店舗を巡ってもらう企画を実施した。

urban design week. と連動した 滞留空間創出事業 P56～P57

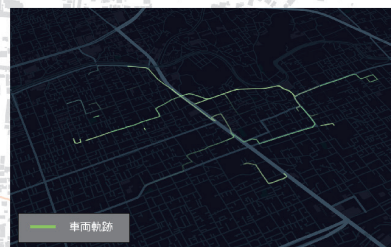
もうすぐ松山市駅前に誕生する新たなシンボル広場に対して、市民の関心を高めることを目的とした滞留空間創出事業を実施。まちなかで“自然を感じ”ながら、ゆったりと“くつろげる”広場空間をイメージした。



まちなか mini HiROBA

まつやま歴史まちあるき P96

大観覧車「くるりん」から広がる松山のパノラマを鑑賞しながら、松山の歴史が学べる新たな動画コンテンツを作成。動画では、坂の上の雲ミュージアム前総館長 松本啓治氏が、まちの解説を担当している。



スマートシティ事業



フリースペース「もぶるラウンジ」の運営

愛媛新聞社前

JR松山駅

大手町通り

愛媛CATV

城山公園

坂の上の雲ミュージアム

花園町通り

UDCM もぶるラウンジ

松山市駅前
バス停跡地

松山市駅

銀天街商店街

大観覧車「くるりん」

まつやま歴史まちあるき「くるりん編」
坂の上の雲ミュージアム前総館長 松本啓治氏解説

スマートシティ事業 P10～P17
バス OD 交通量や PP 調査結果、相乗りサービスモジュールを組み込んだ交通シミュレーションモデルを用いることで相乗りサービス導入（エリアや料金、車両台数）の検討を可能にした。

UDNM：まちづくり支援事業（イトコ道後） P97～P98

スクール卒業生が立ち上げた NPO 団体「イトコ道後」による企画。宝厳寺境内に設置するオリジナルベンチに座り、坊っちゃん団子の食べ比べをしながら夕焼け観賞を楽しむプログラムを実施した。



夕焼けベンチ + 裏道後ツアー

道後温泉



まちづくり拠点の運営 P62～P85
市民等が気軽に利用でき、交流できる開かれた空間づくりを目的としてフリースペース「もぶるラウンジ」を運営。毎月花園町通りで開催されるイベントと連動した学生スタッフによる企画等も実施した。



アーバンデザイン研究会

アーバンデザイン研究会の実施 P88～P93

アーバンデザイン研究会として、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2023 の講義を兼ねるかたちで、講師の方をお招きし、計 3 回のオンライン配信を行った。

ミュージアム

大街道商店街

久米地区

久米駅

熊本米穀店倉庫



くめはぶ・ええところじゃるミュージアム
～昭和の東道後温泉郷を巡る～

都市回遊型 urban design week. 2023 郊外班久米チーム P20～P55

松山市久米地区の歴史を紹介するミュージアムを企画。賑わいを見せた商店街、広がる田園風景、源泉から湧き出る温泉水を汲む人々の姿など、昭和の久米地区に関する資料を展示すると同時に、当時の様子を一部再現した。

垣生地区

松山今出郵便局裏

垣生小学校



くめはぶ・ええところじゃるミュージアム
～いまむかし今出の絆 垣生めぐり～

都市回遊型 urban design week. 2023 郊外班垣生チーム P20～P55

松山の伝統工芸「伊予絣」や、「今出西国三十三観音」など、垣生地区の歴史を紹介するミュージアム。機織りの旋律とともに、伊予絣の創始者「鍵谷カナ」氏に焦点を当てたオリジナル絵本の読み聞かせも実施した。

Chapter

01

スマートシティ

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして、データ駆動型都市プランニングに基づいたまちづくりの実現を国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトと連携して実施している。

今年度は、地域公共交通計画の検討や新たなモビリティサービス（タクシー相乗りサービス）の提供による歩いて暮らせるまちづくり実現のため、AI カメラによる路線バス OD 調査及びプローブパーソン調査を実施するとともに、相乗りサービスを考慮したシミュレーションを行っており、その実証実験結果の概要について示す。さらに、UDCM が取り組んだスマートシティに基づく相乗りサービスの検討手法について詳細を記述する。

- ・ 松山スマートシティプロジェクトの実証実験の概要
- ・ スマートシティ型プランニングによる相乗りサービスの松山市石井地区への適用

(1) 松山スマートシティプロジェクトの実証実験の概要

1) 実証実験の目的

次世代モビリティサービスの実現には、中長期的な時間を要するため、短期的な実装を目的として、多様な公共交通サービスの最適化の実現も同時に目指すこととした。今年度は、地域公共交通計画の検討や新たなモビリティサービス（タクシー相乗りサービス）の提供による歩いて暮らせるまちづくり実現のため、AIカメラによる路線バスOD調査及びプローブパーソン調査を実施するとともに、相乗りサービスを考慮したシミュレーションを行い、その妥当性について評価を行った。

2) 実証実験の内容

実証実験にあたっては、松山スマートシティ推進コンソーシアムの構成員の役割分担（バスOD調査は日本電気、プローブパーソン調査は復建調査設計、交通シミュレーションの実施はUDCMが主担当）を行ない、各プロジェクトでグループを作成して計画から実施、分析に至るまで適宜協議を重ねながら進めた。

① AIカメラによるバスOD調査

路線バス（森松・砥部線）利用者の乗降特性（OD、属性）について、映像解析及びWi-Fiセンシングによる自動及び持続取得の可能性について検証を行なった。計測期間は2023年3月6日から24日、計測便数

は107便に対して実施し、真値データ、WiFiセンシング(with GPS)、映像データを得ることができた。本実験実施に当たっては、本エリアの中心事業者である伊予鉄バスのご協力をいただいた。

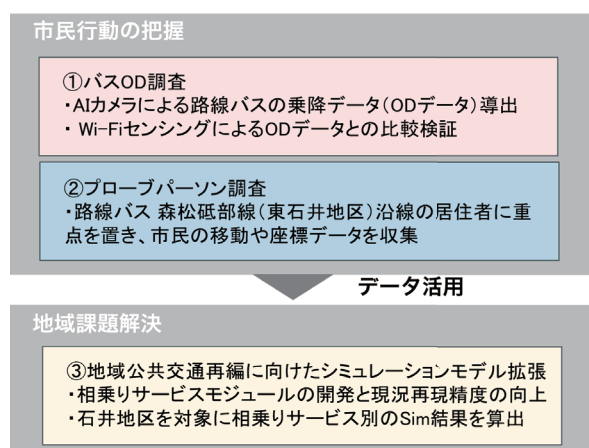
② スマートフォンによるプローブパーソン調査

対象地区にお住まいの方の現状の交通行動や、森松・砥部線利用者の行動、その他松山市内居住者の移動手段・目的・目的地などの実態を把握することを目的として、スマートフォンによるプローブパーソン調査を実施した。モニターは104名で、そのうち、調査期間中に平均して1トリップ/日以上ある71名を分析対象とした。なお、1日あたりの平均トリップ数は、2.60トリップ/日であった。

③ モビリティサービス導入に向けた

交通シミュレーションの実施

地域公共交通の課題を解消することを目的に、次世代サービスの1つである相乗りサービスモデルを構築し、スマートシティ型プランニングによる松山都市圏への適用を行うこととした。具体的には、相乗りサービスの車両台数や料金設定の違いによる感度を把握するためのシナリオを作成し、松山市石井地区に適用することで利益率や相乗り割合の変化をとらえることが可能となった。



実証実験の実施内容



実証実験の対象地区（松山市石井地区）

3) 実証実験で得られた成果・知見

① AI カメラによるバス OD 調査

属性付き（年齢、性別など）OD について、AI カメラの映像解析によって、人数の推計が一定精度で実施できた。また、手動で計測した真値との比較により、その精度を定量的に評価することができた。データプラットフォームを活用した乗車人数表示アプリ（GIS 上で属性情報付き）を開発し、リアルタイム情報として共有できた。

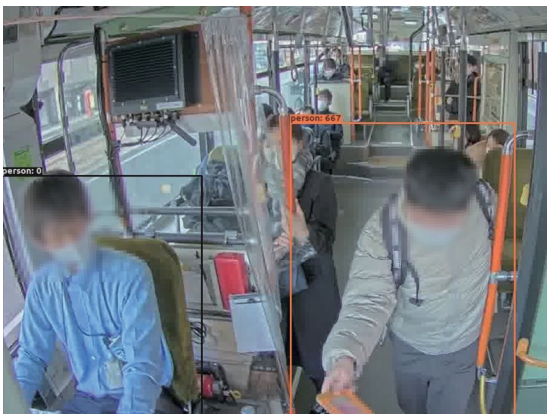
② スマートフォンによるプローブパーソン調査

プローブパーソン調査によって、石井地区のトリップ特性（目的、手段など）について把握することができた。石井地区では買い物のショートトリップが多く、地区内で行動が完結していた。また、石井地区の路線バス（森松・砥部線）利用者は、通勤目的で松山市中心部へ移動する人が大半であることが確認できた。

③ モビリティサービス導入に向けた

交通シミュレーションの実施

バス OD 調査（バス OD 交通量）やプローブパーソン調査結果（トリップデータ、交通手段）をシミュレーションモデルに反映させることで、現況再現やその後の予測について、精度向上を図ることができた。相乗りサービスモジュールを開発したことで、モビリティサービスの 1 つである相乗りサービス導入時の検



AI カメラの撮影状況

討（サービスエリア、営業時間、車両台数、利用料金等）が可能になった。特に、松山市石井地区を対象として、相乗りサービスの車両台数や料金設定のシナリオ別にシミュレーションを実行し、妥当な範囲内で感度があることを把握することができた。

4) 実証実験で得られた課題

① AI カメラによるバス OD 調査

AI カメラを用いた映像解析による属性推定は、画角の影響を強く受けたため期待した精度が得られなかった。顔認証による属性判定の技術そのものに制約があることが浮き彫りとなった。バスのような狭い空間での Wi-Fi センシングは、大人数（約 40 人）を推計することが困難であった。

② スマートフォンによるプローブパーソン調査

スマートフォンによるプローブパーソン調査は、モニターの負担が大きく、限定された地区のモニターを集めることが困難であった。また、トリップの記録はモニター自身が行うため、取得データの信頼性に課題が残る。

③ モビリティサービス導入に向けた

交通シミュレーションの実施

属性別（性別、年齢別など）や断面（各バス停の乗降客数）、他の交通手段の断面（自動車、歩行者、徒歩）交通量との組み合わせによる再現精度の向上が必要である。シミュレーション結果の妥当性やわかりやすい指標や可視化により交通事業者と活用可能な仕組みにしていける必要がある。

5) 今後の取り組み

歩いて暮らせるまちづくりを高度に推進するため、今後、需要拡大が想定されるタクシーの相乗りサービスと路線バスの最適化を、データに基づくシミュレーションにより立案可能とし、さらに、社会変化にも対応可能なデータ駆動型のプランニングを実現する。

(2) スマートシティ型プランニングによる 相乗りサービスの松山市石井地区への適用

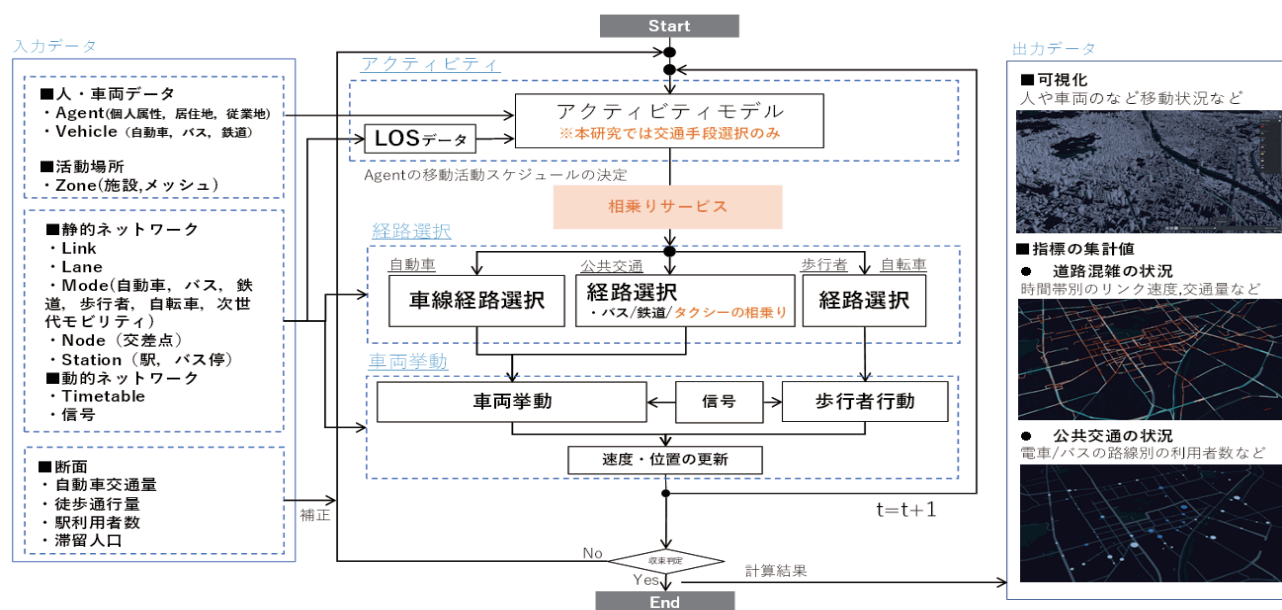
1) はじめに

ここでは、松山スマートシティプロジェクトの実証実験のうち、UDCM が取り組んだモビリティサービス導入に向けた交通シミュレーションの実施について詳細を記述する。

これまでの地域公共交通は、定時・定路線型の路線バスと、ドア・ツー・ドアの一般タクシーが主体であったが、人口減少と高齢化の進行等に伴い、公共交通利用者の減少や運転手の担い手不足などにより、路線バスの縮小・廃止、タクシー予約が困難などの問題が顕著になりつつある。そのため、デマンドバス・タクシーなどの相乗り送迎サービスが各地で普及しているが、過度なサービス導入は、既存公共交通利用者の更なる減少を招くことが懸念される。一方、松山市では、スマートシティの取り組みとして、さまざまな都市データに基づいて都市マネジメントを行う「データ駆動型都市プランニング」の実装により、ミクロなシミュレーションモデルを用いた都市空間改編や新たなモビリティの導入等による次世代サービスの提供が試みられている。そこで、地域公共交通の課題を解消することを目的に、次世代サービスの1つである相乗りサービスモデルを構築し、スマートシティ型プランニングによる松山都市圏への適用を行うこととした。

2) シミュレーションモデルHongoの概要

シミュレーションモデルとして、東京大学羽藤研究室で開発されてきた Hongo を用いる。Hongo は、与えられた交通需要から自動車、バス、鉄道、歩行者といった Agent を生成し、それらある決まりに従って移動させていくことで、道路の混雑状況や交通量などを見ることができる。図-1 シミュレーションモデル Hongo の全体フローを示す。入力データは、スマートフォンによる人や車両の移動データ、鉄道やバスの路線、道路網からなる静的ネットワークデータ、時刻表や信号現示からなる動的データ、滞留人口や駅利用者数、自動車交通量からなる断面データなどを用いることができる。本研究では、シミュレーションモデル Hongo を拡張して、移動手段として相乗りサービスを組み込む。相乗りサービスは、Agent の移動手段として、アクティビティモデル内の交通手段選択の1つとして考慮する。さらに、相乗りが候補となった Agent をマッチングし、相乗り車両を利用しながら経路経路を選択する相乗りサービスモジュールの構築を行った。



シミュレーションモデル Hongo の全体フロー

3) 相乗りサービスモジュールの構築

相乗り実施には、2名以上の利用者の利用時間と出発地および目的地に応じ、相乗り車両が利用可能かどうかについてマッチング（調整）する必要がある。その方法について、具体的なロジックを構築することで、1台の車両に複数の利用者が相乗り可能かを考慮できるようにした。相乗りの条件は、出発時刻の差分と利用者の最大遅延に着目し、変数として考慮できるものとした。図に相乗りサービスの交通手段選択のフローについて示す。フローの各項目での処理の詳細については①から⑧に分類して、以下にそれぞれを説明する。

① LOS 算出（相乗り考慮）

各交通手段（自動車、公共交通、自転車、徒歩）別に交通手段選択モデルに必要な LOS を算出する。この際、公共交通の一部のサービスとして、相乗りサービスを考慮する。サービス対象エリア内に両方の OD がある場合、出発ノードから到着ノードまでを自動車と同様に利用できるものとした。前日までの事前予約制を前提として、アクセスやイグレスの徒歩所要時間及び待ち時間はゼロとして算出する。

② 交通手段選択

相乗りによる公共交通を選択肢として考慮した上で、交通手段選択モデルとそのパラメータおよび LOS に基づいて、トリップごとの交通手段を決定する。

③ 相乗り車両

相乗りパラメータに基づいて設定された車両台数と1台当たりの最大利用者数（本研究では最大2名まで）に応じて相乗り車両を生成し、車両の運行時間帯について決定する。

※車両ごとに個別に設定することも可能

④ 空車選択（単独利用）

交通手段として相乗りサービスが決定されたトリップに対して、相乗り車両が利用可能か検討する。空きの車両がある場合、相乗り車両の単独利用として予約を入れ、空きの車両がない場合は、相乗りを検討する。

⑤ 出発時間差・最大遅延の判定（相乗り判定）

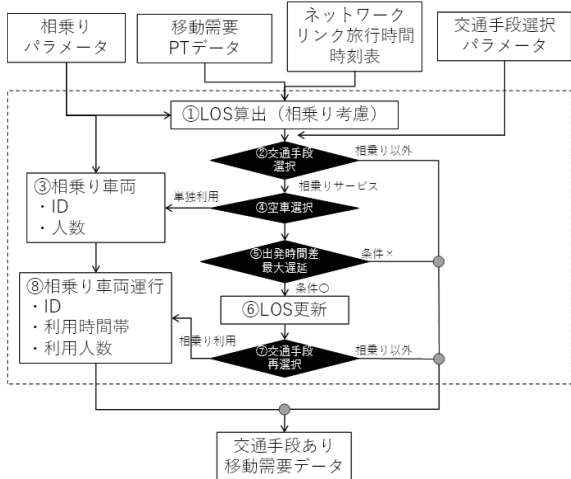
2人（A、B）のトリップの出発時刻の差分が δ 以下でかつ利用者の最大遅延時間がそれぞれ Δ 以下であるか判定し、これを満たす場合は LOS 更新し、満たさない場合は相乗り以外の交通手段を選択する。最大遅延時間は、二人の利用者間の移動を、迎え（ A_o から B_o もしくは B_o から A_o ）、相乗り（A、Bともに乗車）、送り（ A_d から B_d もしくは B_d から A_d ）をそれぞれ計算し、 $[A_t]'$ と $[B_t]'$ を求める、A、Bそれぞれのもとの所要時間 A_t と B_t からのそれぞれの増分を計算することで遅延時間を算出する。

⑥ LOS 更新

相乗りが可能となった場合、相乗りするそれぞれのトリップの遅延時間に合わせ、それぞれのトリップの LOS 値（公共交通全体の旅行時間、公共交通乗車の旅行時間）を更新する。

⑦ 交通手段再選択

更新した LOS に応じて再度交通手段選択を行う。ランダムシードは交通手段選択時と同じものを使用する。それぞれのトリップの交通手段が変化しなかった（公共交通のままの）場合、相乗り利用を確定する。一方、どちらかのトリップの交通手段が変化した場合、後から相乗りしようとしたトリップを対象に、再度、利用する交通手段を検討する。



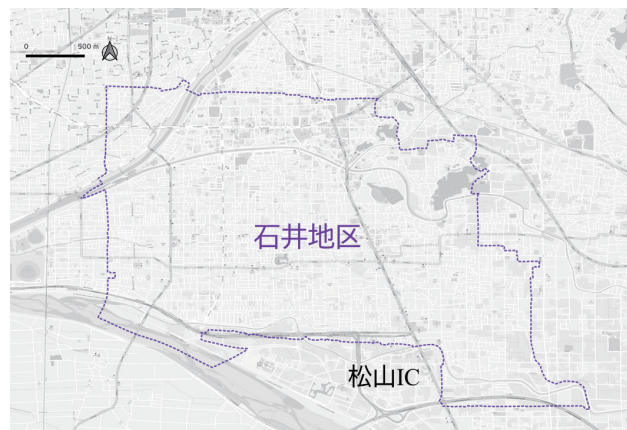
相乗りサービスの交通手段選択のフローについて

⑧ 相乗り車両運行

相乗りが決定したトリップに基づき、車両ごとに利用時間帯と利用人数を更新する。最短で相乗り利用ができるように、出発時間帯と経路する経路を特定する。

4) 松山都市圏への適用事例

構築した相乗りサービスのモジュールを用いて、松山都市圏への適用を行う。現在、チョイソコと呼ばれる相乗りサービスの運行が検討されている松山市石井地区を対象とした。図に具体的な相乗りサービスの導入エリアを示す。



相乗りサービスの導入エリア

Hongo の入力データの概要

種類		ファイル名	内容
交通ネットワーク	Node データ	CarNodes.csv	自動車用
		WalkNodes.csv	歩行者用
		BicycleNodes.csv	自転車用
		RailNodes.csv	鉄道用
		PublicTransitNodes.csv	公共交通の経路選択用
	Link データ	CarLinks.csv	自動車用
		WalkLinks.csv	歩行者用
		BicycleLinks.csv	自転車用
		RailLinks.csv	鉄道用
		PublicTransitLinks.csv	公共交通の経路選択用
		StationGates.csv	歩行者と駅を接続するリンク
	Connectivity データ	RoadLaneConnectivity.csv	車線の接続関係
		RailLaneConnectivity.csv	線路の接続関係
	信号データ	Signal.csv	信号の設置位置, 信号現示
公共交通	駅	Stations.csv	鉄道駅, バス停, モビリティの乗降用
	路線駅	RouteStations.csv	路線別の Station
	経路	RouteLinks.csv	路線別の道路及び鉄道 Link
	車両	Trains.csv	鉄道やバスのサイズ
	時刻表	Timetable.csv	路線駅間の出発時刻
相乗りサービス	車両	SharedRideService.csv	出発時刻の差分, 利用者の最大遅延時間, 利用料金, 営業時間, 車両台数
	エリア	SharedLink.csv	自動車用のうち相乗りサービスの対象リンク
需要		Trips.csv	時間帯別の出発地から到着地への移動
パラメータ	交通手段選択	mcParam.csv	交通手段選択モデルパラメータ
	経路選択	rcParam.csv	交通手段別の DRL モデルパラメータ
	車両挙動	vbParam.csv	車種別の加減速モデルパラメータ

① 入力データ

表に入力データの概要を示す。シミュレーションモデルの作成及び実行に必要な入力データは、2020 年度に松山スマートシティプロジェクトで整備したデータ {ネットワークデータ（公共交通関連データ、道路交通関連データ）、移動データ（平成 19 年度松山都市圏パーソントリップ調査による移動需要、時刻表データ、信号データ）} を使用する。

② 相乗りサービスのパラメータ

表に相乗りサービスに関するパラメータの種類と初期設定値を示す。相乗り配車モジュールとシミュレーションモデルに必要な相乗りサービスのパラメータを用いる。

③ シナリオの作成

最初に、相乗り車両の検討に必要なシミュレーションの各シナリオに、統一条件を設定した。移動需要は、平成 19 年度松山都市圏パーソントリップ調査のうち、松山市石井地区を OD とするトリップとした。計算の対象時間帯は 6:00-24:00 としたうえで、表に示す複数のシナリオを設定した。シナリオの違いとして、第一にトリップの交通手段としての相乗りサービスの利用の有無、第二に相乗りサービスの違いによる感度比較を行う。シナリオ①は、現況再現とした。ブローブパーソン調査結果を用いて MNL モデルにより交通手段を推定、交通需要はパーソントリップ調査のトリップデータと拡大係数により出力する。シナリオ②は相乗りの基本ケースとした。感度分析を行うため、料金（50 円 / 回）、車両台数（20 台）での相乗りサービス実施時の結果を出力する。シナリオ③は、相乗り感度分析（車両台数）とした。シナリオ②との違いとして、車両台数を 20 台から 5 台に減少させた場合の計算結果を出力する。シナリオ④は、相乗り感度分析（料金）とした。料金を 50 円 / 回から 500 円 / 回に増額した場合の計算結果を出力する。

④ シミュレーションの実行

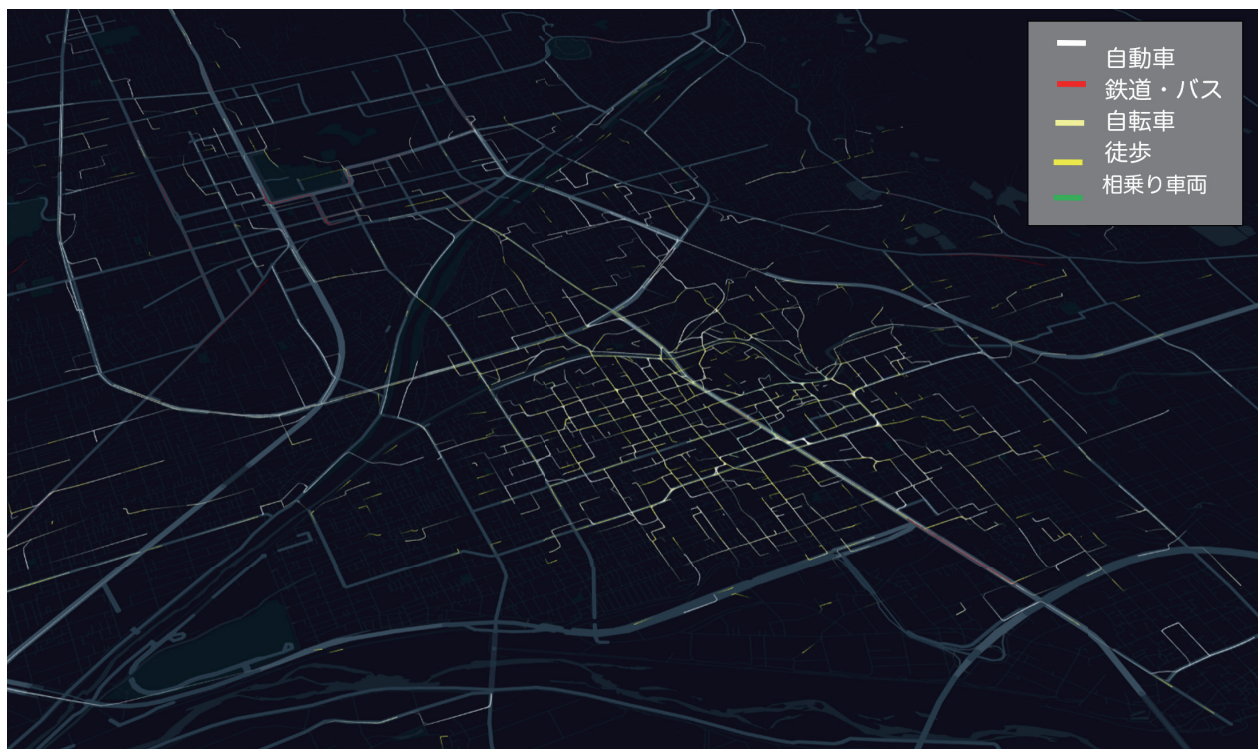
入力データをもとにシナリオ別のシミュレーションを実行した。その計算結果を可視化し、図で交通手段別の人や車両の移動状況（シナリオ③）と、抽出した相乗り車両の走行状況（シナリオ③）を示す。交通手段として、徒歩、自転車、自動車、公共交通（鉄道、バス、相乗りサービス）を考慮したシミュレーションが可能であることが確認できた。相乗り車両の運行状況についても可視化し、把握することが可能になった。

相乗りパラメータの種類と初期設定値

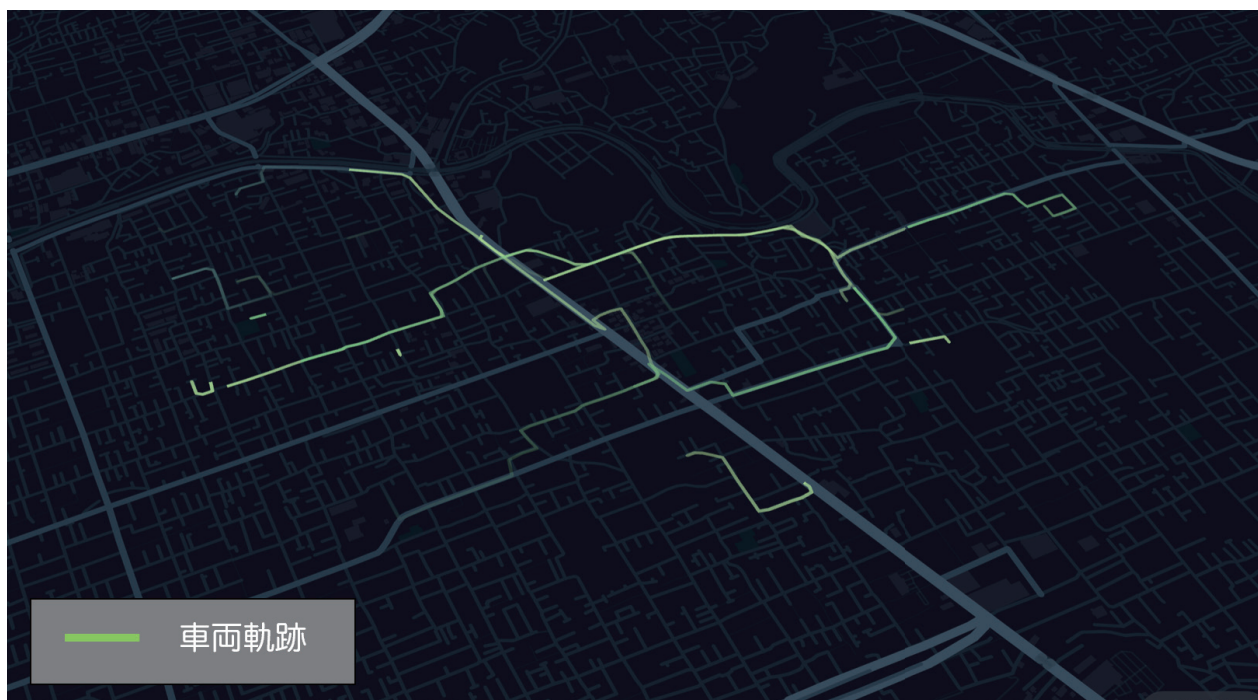
パラメータ名	初期値
出発時刻の差分: $t_{oi} - t_{oj} \leq \delta$	600 秒
利用者の最大遅延時間: Δ	600 秒
1 回あたりの利用料金	50 円
営業開始時刻	6:00
営業終了時刻	24:00
相乗り車両台数	20 台

シナリオ設定

シナリオ	相乗り	条件
① 現況再現	なし	
② 相乗り基本	あり	料金（50 円 / 回） 車両台数（20 台）
③ 相乗り感度分析 （車両台数）	あり	車両台数 （20 台→5 台）
④ 相乗り感度分析 （料金）	あり	料金 （50 円 / 回→500 円 / 回）



交通手段別の人や車両の移動状況（シナリオ③）



相乗り車両の走行状況（シナリオ③）

シナリオ別のシミュレーション結果

	①現況	②相乗り基本	③相乗り感度 (車両台数20→5)	④相乗り感度 (料金50→500)
自動車乗車時間(hr)	5395.2	5383.6	5396.6	5421.0
公共交通乗車時間(hr)	309.1	309.1	296.8	288.5
公共交通待ち時間(hr)	309.5	325.1	333.6	291.6
徒歩アクセス時間(hr)	388.7	387.3	391.6	377.7
自転車旅行時間(hr)	2681.3	2684.2	2685.4	2688.6
徒歩旅行時間(hr)	7515.7	7513.7	7521.2	7519.0
総移動時間(hr)	16599.5	16603.0	16625.2	16586.3
相乗り車両台数	-	20	5	20
相乗り車両料金(円/回)	-	50	50	500
利用者数	-	706	468	627
相乗り回数	-	26	217	10
料金収入(円/台)	-	1,765	4,680	15,675
車両稼働時間(hr/台)	-	2.6	9.2	2.3

⑤ 適用結果と考察

シナリオ別にシミュレーションを実行した結果について、表にまとめて示す。シナリオ①とシナリオ②を比較すると、自動車乗車時間が大きく減少していることがわかる。これは、石井地区内での相乗りサービスの利用により自動車の利用が減少したと考えられる。

つぎに、導入する相乗りサービスの違いによる比較を行う。シナリオ②とシナリオ③を比較すると、相乗りの利用割合が増えていることがわかる。これは、相乗りに利用できる車両台数を減らしたことで、相乗りの割合が増えた一方、全体の利用者数が減少したことに起因し、現実的な結果が表現できていることがわかる。また、1台当たりの稼働時間が長くなっていることから、シナリオ③の方が効率的な運用を行っていることが理解できる。シナリオ②とシナリオ④を比較すると、相乗りサービスの利用料金を増加させたことにより、利用者数および相乗りでの利用者数が減少していることがわかる。こちらも、料金の変動に対して、現実的な結果が表現できていることがわかる。また、1台当たりの料金収入では、シナリオ④の方が、利益率が高いこともわかる。

5) まとめ

相乗りモジュールを作成し、シミュレーションモデルを用いることで相乗りサービス導入時の検討が可能になった。また、相乗りサービスの車両台数や料金設定の違いによる感度を把握することができた。今後、属性別（性別、年齢別など）や断面（各バス停の乗降客数）、他の交通手段の断面（自動車、歩行者、徒歩）交通量との組み合わせによる再現精度の向上が必要である。また、シミュレーション結果の妥当性やわかりやすい指標、可視化により交通事業者と活用可能な仕組みにしていく必要がある。その結果として、松山市内の各地で現在検討されている相乗りサービスが、地域公共交通全体に与える影響について把握可能となることが期待される。

Chapter

02

公共空間の利活用

UDCM では 2016 年度から 2019 年度まで、松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務を松山市から受託し、まちづくり拠点運営とプログラム企画の実施等を通じた賑わいづくりに取り組んできた。松山市による当該社会実験終了に伴い、2020 年度から UDCM による自主運営に切换え、まちづくり拠点である「もぶる라운ジの運営（後章）」と「公共空間の利活用」を行っている。

これまで取り組んできたみんなのひろば（2014-2018）、花園町通り（2018-）、またアーバンデザインスクール（2014-）でのプログラム企画等の知見を活かし、2021 年度からはスクール形式での公共空間利活用プログラムの開発等にも取り組み始めた。次頁以降にて、具体的な活動内容について振り返る。

- ・ 2023 年度アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動
- ・ 都市回遊型社会実験『urban design week.2023』
- ・ UDSC スクールおよび UDweek. 後の展開

(1) 2023 年度 アーバンデザイン・スマートシテースクール松山の活動

1) 概要

アーバンデザイン・スマートシテースクール松山（以下、UDSC スクールという）は、地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラムである。受講生は、グループに分かれて対象とする敷地の歴史的成り立ちなどを踏まえた実践的なまちづくり活動を学ぶ。

2) 体制

2023 年度は、計 25 名の受講生が、3 グループにわかれて地域資源を活かした展示や活動プランづくりとその実践に向けて取り組んだ。受講生の内訳は表のとおりである。

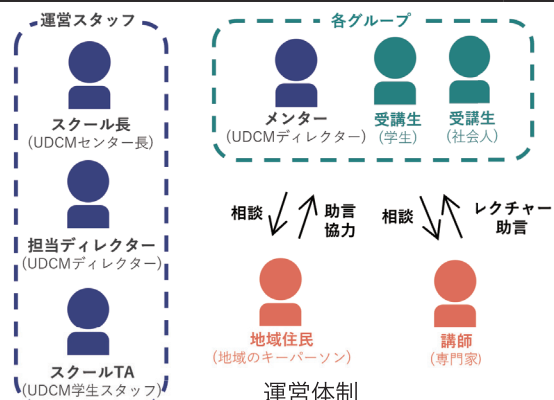
また、協力者（地域のキーパーソンや大学教員などの専門家）との橋渡しや各グループへの助言などは、各グループに配置された UDCM ディレクターが行い、グループ活動に伴走する役割を担った。各グループのサポートメンバーと、各グループの受講生数は、表のとおりである。

受講生の内訳

区分	所属	人数	
学生	愛媛大学	6	9
	松山大学	3	
社会人	松山市役所	8	16
	今治市役所	1	
	伊予市役所	2	
	広島県庁	1	
	復建調査設計	1	
	ウエスコ	1	
	伊予銀行	1	
	愛媛銀行	1	

各グループの構成

グループ名	サポートメンバー	学生 受講生	社会人 受講生	グループ合計 受講生数
まちなか班	竹内 仁美 (UDCM ディレクター) 尾形 愛実 (UDCM アシスタントディレクター)	3	5	8
郊外班	渡邊 浩司 (UDCM ディレクター) 日野 順子 (UDCM アシスタントディレクター)	4	5	9
JR 松山駅班	三谷 卓摩 (UDCM ディレクター) 山之内 崇 (UDCM プロジェクトディレクター) 松尾 悠馬 (スクール TA)	2	6	8



3) スケジュール

2023年6月の開講以降、受講生は全3回のレクチャーを受けて知見を深めた後、グループワークを通じて、地域資源を活かした展示や活動プランづくりとその実践に取り組んだ。

なお、UDSC スクールのレクチャーは、アーバンデザイン研究会を兼ねて開催したため、受講生以外にも聴講できるよう UDCM の YouTube チャンネルにてライブ配信をおこなった。ライブ配信は、申込不要、参加無料とし、市民など参加者がリアルタイムで視聴することができる仕組みとした。各レクチャーの内容については、4章で詳細を記載する。

全体スケジュール

月 日	内 容
2023.6.28	ガイダンス ※現地開催 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2023.7.11	第1回 レクチャー「アーバンデザイン」 ※オンライン開催 講師：浅子 佳英（PRINT&BUILD）、西澤 徹夫（西澤徹夫建設事務所 主宰）、森 純平（一般社団法人 PARADISEAIR 代表理事）、益子 智之（東京都立大学 助教）、伊藤 香織（東京理科大学 教授）
2023.7.15	第2回 レクチャー「美術館デザイン」 ※ハイブリッド開催（現地会場：坂の上の雲ミュージアム） 講師：上田 一樹（坂の上の雲ミュージアム 学芸員）、関 厚子（セキ美術館 副館長）
2023.7.26	第3回 レクチャー「スマートシティ」 ※オンライン開催 講師：大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）、西岡 満代（NEC スマートシティ事業部門 上席プロフェッショナル）、鈴木 克宗（道路新産業開発機構）
2023.8.1 ～ 10/20	グループワーク
2023.8.2	「プラン発表会」 ※ハイブリッド開催 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2023.10.21 ～ 10.29	展示・企画実施 ※社会実験 urban design week.2023
2023.11.30	各グループ活動レポート提出
2024.1.16	2023 年度 UDSC スクール修了式 ※ハイブリッド開催

4) グループワーク等の実施

グループワークについては、グループメンバーの都合や COVID-19 感染状況に合わせ、対面とオンラインを織り交ぜて取り組んだ。実施頻度はグループによってまちまちであったが、定期的にオンラインで集まり、議論や準備を進めていた。

グループ内外のコミュニケーションについては、UDSC スクール用にワークスペースを開設した Slack を積極的に利用するよう呼びかけたため、日常的な交流や資料の共有などが Slack 上でおこなわれた。運営スタッフも Slack 上での各グループ内のやりとりを確認することができたため、ある程度、各グループの状況や進捗を把握することができた。



グループワークの様子



プラン発表会の様子



Slack 上での資料や進捗共有の様子

5) 各グループの実施内容

レクチャーやグループワークでの議論を重ねて、3グループが実際に取り組んだ展示・企画等について、活動レポートで振り返る。

『ココきて！らくがき ココどこ？まち探検』

まちなか班：

大政 璃奈（松山大学）、植田 光香（愛媛大学）、
後藤 大輝（愛媛大学）、今本 光（松山市役所）、
矢野 ひなの（株式会社愛媛銀行）、
横山 愛香（株式会社伊予銀行）、
上田 朱里（松山市役所）、越智 ゆかり（松山市役所）
竹内 仁美（UDCM ディレクター）
尾形 愛実（UDCM アシスタントディレクター）



【ミーティングの様子】

■企画の背景と目的

わたしたちの班名でもある「まちなか」とはどこかを話したとき、大街道や銀天街、松山市駅、JR 松山駅、道後温泉などの場所があがった。そこで実際に、まち歩きを行い、状況を確認したところ、JR 松山駅～松山市駅のエリアは、まちなかでありながら他のエリアと比べると人通りが少なく、まちが賑わっているとは言い切れない状況のように感じた。特に大手町通りは、通勤通学などで駅に向かう方や自転車で通る方が多く、利用者にとって目的地に行くための通過点となっていることに気が付いた。



【まちあるきの様子】



【作業の様子】

しかし班でまち歩きを進める中で、このエリアにも魅力的な店や風景は多くあり、また現在行われている JR 松山駅や松山市駅の再開発終了後には、駅間をつなぐ新たな回遊軸として、大手町通り、そして花園町通り周辺は重要なエリアであると言える。

そこで、「今まで気が付かなかったまちなかにある魅力を発見してもらうこと」を目的とし、徒歩による回遊型フォトラリーイベント（まち探検）を計画した。合わせて、まちなかに親子で遊びに行ける場所が少ないという問題点にも着目し、松山市駅と JR 松山駅の間地点に位置する愛媛 CATV 内の市民開放型オープンスペース「オープンスクエア」をお借りし、落書きイベントも実施した。このイベントでの体験が、将来を担う子どもたちにとってまちなかでの良い思い出として残り、まちなかへの愛着やまちづくり活動への関心に繋がって欲しいと考え、メインターゲットは幼稚園から小学生までの親子連れとした。



【「ココきて！らくがき」スポットの様子】

■活動内容

10月22日（日）、28日（土）、29日（日）の3日間、愛媛CATVの「オープンスクエア」を会場に、「ココどこ？まち探検マップ」を配布し、まち歩きを促すとともに、「ココきて！らくがき」スポットとして自由に落書きを楽しむ空間を創出した。

「ココどこ？まち探検マップ」は、JR松山駅と松山市駅を繋ぐエリアにある、メンバーが気になったお店やスポットを撮影し作成した。イラストなども入れ手書き風のデザインにした。表面を「かんたんバージョン」裏面を「むずかしいバージョン」として、幅広い世代が楽しめるように工夫した。参加者には、マップに掲載されている写真の場所を探してもらい、見つけることができた場所の数に応じて景品をプレゼントした。なお、景品は、オリジナルグッズ（トートバッグ、巾着）や、マップエリア内にあるお店（喜助の湯、モンマルトル、花勝）の商品とすることで、お店のPRにも繋がるようにした。

「ココきて！らくがき」スポットは、オープンスクエアの壁に約1.7m×5mの大きな模造紙を貼り、参加者に絵の具やクレヨンを使って自由に思い思いの絵を描いてもらった。筆やローラーも用意し、普段家ではできないような大胆なお絵描きができる場所とした。また、らくがきするときに衣服が汚れることを防ぐために、カラフルなポリ袋を使用したポンチョを作ってもらった。スタッフが参加者の写真を撮らせていただき、その写真を感想コーナーにも展示した。希望者にはその場で印刷して写真をプレゼントした。

イベント初日に完成した作品は、翌日10月23日（月）～29日（日）まで、愛媛CATVの本社1階「オープンスタジオ」にて展示させていただき、多くの方に見ていただくことができた。

■成果

イベント期間中の3日間で、計134名の方にご参加いただきました。

「ココどこ？まち探検マップ」は、79名の方が企画に参加してくださり、19名の方が全写真ポイントを巡ってくださった。普段車や自転車を使っている方が、マップを持って自分の足でまちを歩いて探検していただくことで「普段行かない場所や気が付かないものを見ることができた。」「まち探検をすることで、知らないスポットを知るきっかけになりました！」など、本イベントを通じてまちに関心を持つきっかけになったという意見を多くいただいた。また、参加者から、景品としてプレゼントしたお菓子がとても美味しく、後日お店に行って商品を購入したという話もいただいております、イベントをきっかけにまちの活性化にもつながったのではないかと考える。



【ポンチョづくりの様子】



【まち探検の景品】

「ココきて！らくがき」では、親子連れをメイン対象としたため、参加者の75%が30代までの方という結果となった。参加者からの声としては、「おうちではできないお絵描きができ良かったです。」や、「テーマの決まっていない絵を描くことが苦手な娘たちですが、夢中になっていました。」などの意見をもらった。また、立ち寄ってくださったご年配の方が、「子どもたちがこうやってのびのび遊んでいる様子はいいですね」とお話しいただくなど、幅広い年代の方に楽しんでいただくことができた。



【「ココどこ！まち探検マップ」の参加者】

■今後の展望

今回のイベントを行ったことで、まちなかの新たな魅力の発見につながったり、知らなかったお店に行くきっかけになったりと、まちの活性化につながったと考える。このイベントは、多くのお店や企業の協力があった開催できたものであり、今後も地域と連携・協力しながら、まちの活性化につながる活動を続けていきたい。

そのための課題として、2つ挙げる。1つ目は、事前の広報である。イベント開始直後は参加者が少なかったため、会場周辺での積極的な声掛けを行った。実際に声掛けをした参加者から、「せっかく良いイベントなのに知らなかった、事前に知っていたら来た人ももっといると思う」という声があった。親子連れを対象とするのであれば保育園や小学校への周知を行うなど、普段歩く人が少ないエリアでのイベントであればなおさら、周知方法を工夫することは重要であると感じた（一部小学校や児童館ではチラシを配布していただいた）。



【事前準備の様子】



【「ここきて！らくがき」参加風景】



【オープンスタジオでの展示の様子】

2つ目は、イベント終了後も、今回の対象エリアに人が継続して訪れてくれるようにする工夫である。今回は urban design week. 終了後、11月19日（日）に花園町通りで開催された「お城下マルシェ花園」にて、松山アーバンデザインセンターを拠点にまち探検マップを配布した。このように、一過性ではなく継続的にまちを歩いてもらうきっかけづくりを行うことで、まちの魅力発見・再認識だけでなく、新たなコミュニティや居場所の創出につなげた。合わせて、今回のような子どもたちが楽しめる空間がまちなかにあることの重要性を発信していくことで、松山で動き始めている再開発等で、子どもをキーワードとする施設の設置を検討してもらうきっかけになればと考える。

景品提供にご協力いただいたお店

伊予の湯治場 喜助の湯（キスケ株式会社）さま
モンマルトルさま
花勝さま

会場・宣伝協力

株式会社愛媛 CATV さま



【まちなか班の集合写真】



【ココどこ！まち探検マップ】

マップに掲載させていただいた施設・店舗

cafe AOYAMA さま
ピコロモンドさま
花山ちゃん店さま
最廣寺さま

くめはぶ・ええところじゃるミュージアム

～昭和の東道後温泉郷をめぐる～

郊外班久米チーム：

山地桃加（愛媛大学）、山路大智（愛媛大学）、
松谷咲良（松山市役所）、真鍋一宏（松山市役所）、
渡邊浩司（UDCM ディレクター）
日野順子（UDCM アシスタントディレクター）

■企画の背景と目的

かつての久米地区は、政治の中心地や交通の要所、にぎわう商店街や田園風景が広がり、さまざまな一面をもつ歴史ある地域である。今でも各地に多くの寺社仏閣や、源泉があるなど、魅力的な資源がある地域である。今回のミュージアムは「昭和の久米商店街」「温泉」に焦点を当て、古写真や昔の道具、久米商店街再現マップ、東道後温泉郷の歴史などを展示した。住んでいる地域の歴史や地域資源を様々な展示方法で伝え、地域の人々の記憶を掘り起こし、改めて久米地区が持つ魅力や可能性を再認識するきっかけの場となることを目的とした。さらに、この展示を見に来ることで、当時の思い出話に花を咲かせ、地域の人々の交流が生まれることも狙いだった。



【展示準備の様子】



【展示準備の様子】

■活動内容

10月21日（土）、22日（日）、23日（月）、27日（金）、28日（土）、29日（日）の6日間、今は使われていない熊本米穀店倉庫をお借りし、昭和の久米商店街と東道後温泉郷の歴史と手湯体験の2つを企画の軸として展示を行った。

入口から見て左側のエリアは、主に久米地区の歴史を展示した。昔の久米商店街マップ、歴史年表、日尾八幡神社の昔と今の写真を展示し、久米地区の移り変わりを伝えた。若い人達は、昔の久米の様子を見て、今と全然違うと大変驚いていた。

また、正面には古写真と地域の方からお聞きしたエピソードを壁一面に展示し、地域の方々が懐かしみ、思い出話に花を咲かせる場所を創出した。そして、入口から見て右側のエリアは、東道後温泉郷についての展示を行った。東道後温泉郷年表、久米地区にある温泉の特徴や施設について紹介したパネル、各温泉施設からお借りした温泉グッズ、来場者のコメントカードを湯気に見立てた綿とともに展示し、手湯体験スペースを設けた。手湯は倉庫の裏にある源泉を使い、東道後温泉郷ならではの効能を肌で体感してもらった。また、倉庫の前に人工芝をひき、銭湯のイスを置き、来場客がリラックスして交流ができる前庭空間を作った。そして、来場者特典として古代米の赤米と三玉水を使ったパンを配り、前庭でくつろぎながらパンを食べるという光景が見られた。



【前庭での来場者の様子】



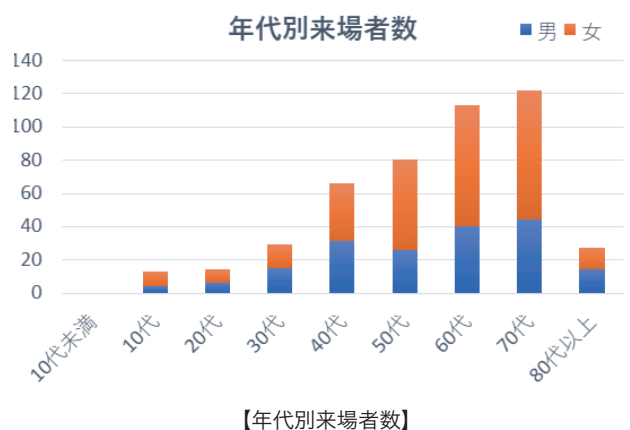
【温泉ブレッド】



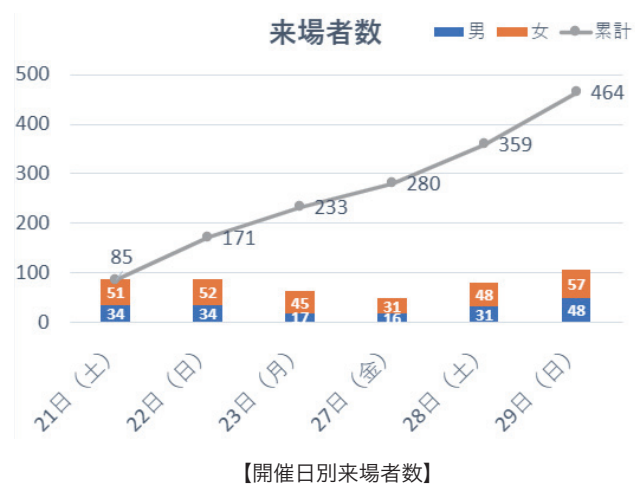
【手湯の様子】

■成果

展示期間中、延べ464名の方にご来場いただいた。老若男女問わず、沢山の方が来てくださり、昔の久米を懐かしみ、思い出話に花を咲かせている光景がみられた。また、来場者のなかには、家族や友達を連れて再び来てくださった。また、公民館で宣伝して下さる方もおり、多くのリピーターの獲得につながった。後半になるにつれ来場者が減少することはなく、最終日の来場者数が一番多かった。来場者には自由に感想を付箋に書いていただき、温泉の湯気に見立てた綿と共に、紐に取り付けていたのだが、この活動に対する感謝の声のほかに、「これからずっと開催してほしい」「この展示の写真誌が欲しい」「〇〇についても取り上げてほしい」などの期待の声や要望も多かった。そして、地域の方々が展示についての豆知識や補足情報を教えてくださり、私たちにとっても、地域をより深く知る場にもなった。展示期間中も地域の方のアドバイスを反映させながら久米の方とともに展示を完成させることができたといえる。



【来場者の様子】



■今後の展望と得られた課題

今回の展示を通して、“久米”という場所は、地域資源に溢れた、面白く魅力的な場所であるように感じた。ただ、今までこれらを発信する場がなく、残念に思っている方々が一定数いたことから、今後もこの活動を続けてほしいというような要望が多かったのではないかと思います。また「1週目と2週目で展示内容が同じなのか？」と聞かれることが多かった。しかし、1週目に展示を見に来てくださった地域の方が、家にあった古写真を持ってきてくださった。それを展示し、少しだけ展示内容に変化を加えたことでより多くの人が楽しめ、日々成長するミュージアムが完成していたように思う。



【コメントカードの展示】



【温泉コーナーとコメントカード】

資料提供

久米公民館 館長 玉井徳雄
日尾八幡神社 宮司 三輪田純

温泉コンサルタント株式会社

久米はいじの会

久米開発有限会社

川本様（南久米町）

仙波屋酒店

高須賀様（南久米町）

武智醤油店

中須賀様（久米久保田町）

乃万化粧品店

乃万様（北久米町）

場所提供

熊本様
如来院

温泉資料提供

久米之癒

東道後温泉そらとり

媛彦温泉

星乃岡温泉

たかのこの湯



【久米グループの集合写真】

ご協力

愛あいサロン
愛媛信用金庫
愛媛銀行久米支店
居酒屋処さむらい
喫茶イーグル
北久米集会所



くすりのレディ北久米店
くすりのレディ（南久米）
久米郵便局
鷹子集会所
鷹子ふれあい館
松山市農協久米支所
松山市立久米小学校
松山市立久米中学校

松山市立窪田小学校
松山市高齢クラブ連合会
南久米集会所
サニーマート松山久米店
スーパー日東（南久米）
ボンジョルネ（南久米）
松山生協（南久米）

くめはぶ・ええところじゃろミュージアム
～いまむかし 今出の紺 垣生めぐり～

郊外班垣生チーム：

山本あい（松山大学）、山下真奈実（愛媛大学）、
井上優花（松山市役所）、
大塚健裕（復建調査設計株式会社 松山支店）、
田中一浩（広島県庁）、
渡邊浩司（UDCM ディレクター）



【展示の外観】

■企画の背景と目的

垣生地区（以降「垣生」）は松山市の西南端に位置し、西は瀬戸内海、南は重信川に面する。また、松山空港やエミフル MASAKI、松山市駅へ車で容易にアクセスできるため、人口が増加している地域である。我々の展示を通じて、垣生の歴史・文化を地域内外の人々に伝え、垣生の魅力を感じて頂くことを目的として展示を行った。

■活動内容

伊予かすり、今出西国三十三観音、垣生の風景の大きく三点の展示を行った。

さらに、10月21日（土）、22日（日）、28日（土）、29日（日）の四日間は、伊予かすり製作工程の一部分である藍染体験や、「鍵谷カナ・伊予かすり創始物語」の紙芝居読み聞かせ、人工芝や椅子、ハンモックを用いた憩いの場の創出、飲料の提供を行った。



【藍染体験をする来場者とスクール生】

伊予かすり

「紺」または「かすり」とは、あらかじめ染め上げた糸を織り上げた伝統工芸である。伊予かすりは「久留米紺」、「備後紺」と並ぶ日本三大紺で、江戸時代後期に鍵谷カナという女性が創始した。

白方興業株式会社や定秀寺よりお借りした実物の機織り機や伊予かすりを展示した。加えて、垣生のあゆみ（垣生公民館,1988）の文章をもとにイラストから作成した絵本「鍵谷カナ・伊予かすり創始物語」や、伊予かすりの過去・現在・未来をイメージしたストリングアートを製作・展示した。さらに、読み聞かせをするため、「鍵谷カナ・伊予かすり創始物語」の紙芝居も作成した。



【伊予かすりの展示】



【展示から会話をはずまる来場者】

今出西国三十三観音

「今出」とは、かつての垣生の地名である。今出西国三十三観音は、享保の大飢饉の餓死者の霊を慰めるため設けられた、西国三十三所巡礼を模した「写し霊場」の一つと考えられている。展示では、西国三十三所巡礼や四国各地に存在する写し霊場について解説しながら、それらと対比する形式で今出西国三十三観音を紹介した。

調査の過程で解明しきれなかった設置主体や配置（今出西国三十三観音は、西国三十三所巡礼と異なり廻りやすい順番となっていない）に対する疑問、さらに15番が所在不明であることを問題定義し、来場者に考えていただくきっかけをつくった。

垣生の風景

瀬戸内海へと続く重信川河口では、野鳥や美しい夕日を望むことができる。また、何気ない日常の風景も、時間の経過や思いの付随によって特別なものになる。今回は、古写真や時代とともに移り変わる地図を展示することで、過去の垣生やその変化に思いを巡らせる機会を提供した。加えて、来場者に垣生の風景を写真や絵におさめていただき、それを掲示するコーナーを設けた。普段はあたりまえに感じている垣生の魅力を再発見し、愛着を感じていただくことができた。



【垣生の古写真パネル】

■成果

開催期間中、計 146 名の方にご来場いただいた。地域の伝統を守りたいと思う方々に出会うことができ、この活動が意味のあるものに思えた。来場者が昔を思い出し懐かしむ様子や、「垣生に住んでいるが知らないことがたくさんあった」と展示に興味を示していたことが印象的であった。展示に加えて、藍染体験、紙芝居読み聞かせを行い、実体験を通して伊予かすりを身近に感じていただくことができた。藍染体験では、実際に伊予かすりを作るように模様を工夫する姿や、きれいに染まったものを見て喜んでいる姿に出会うことができた。児童に、紙芝居の読み聞かせを行うと、「鍵谷カナさん知っとるよ」、「垣生のこんなことも知ってるよ」という会話が生まれ、一緒に垣生について考える時間を共有できた。

今出西国三十三観音の展示は、観音様を廻ることを身近に感じている方がいる一方、なぜ観音様が設置されているのか知らない方も多く、我々が調査・研究した内容について、驚きを持って受け止める方も多数いた。今回の展示で、地域の資源を改めて見直す機会になったと思う。

実施したアンケートからは、「伊予かすりのこと今後もみんなに伝えていってもらいたい。」「昔を思い出して、緋にもっと関わった村になってもらいたい。」「今出西国三十三観音が気になっていたの由来から知れて満足した」という感想をいただいた。

■得られた課題

アンケート調査の結果、70代を分岐点とし、それ以下の年代の来場者が少なかったことが分かった。これは、垣生在住で伊予かすりに触れて育った方が少なくなっており、伊予かすりや地域文化に対し関心が低下しているのではないかと考えている。また、開催場所が分かりにくかった点も原因だと考える。来場者からは「もっと人通りの多い場所で、大勢に見てほしい」との意見もあった。展示に興味がある方だけではなく、大勢の地域の方に見ていただくための工夫が必要であったと言える。



【藍染め体験に微笑む来場者】



【展示を見ながら会話を楽しむ親子】



【ストリングアートと学生メンバー】

■今後の展望

展示期間終了後、垣生の文化祭（11/4）、フジ垣生店（11/18～12/10）に展示をさせていただいた。また、今回作成した絵本『鍵谷カナ・伊予かすり創始物語』は垣生小学校に50冊寄贈し、教育資料として今後活用していただくこととなった（12/14）。さらに、小さなミュージアムは、開催場所にそのまま残ることとなり、未来へと伊予かすり、今出西国三十三観音などの伝統を残していくきっかけ作りができた。今後も、多くの方に我々の展示をご覧いただき、垣生に想いを馳せるきっかけとなることを期待したい。

伊予かすりや今出西国三十三観音、昔の垣生の風景について調査・研究することで昔を知り、ミュージアムで出会った方の思いや、地域の方の関心度を実感することで今を知ることができた。現在、失われつつある地域文化であるが、若者に継承していくなど、昔と今をつなぐ活動を今後も続けることは重要だと考える。時が経ち、「あの時はこんな町の様子だったな」と思い出したとき、未来に残していきたいと思う地域文化への関心、地域づくりが必要である。

今回のミュージアムは多くの垣生の方にご協力を頂き完成することができた。出会いを大切に、今後も活動続けることで地域への理解を深める一助になればと思う。



【絵本の贈呈式の様子】



【鍵谷カナ・伊予かすり創始物語】



【フジ垣生店での展示の様子】



【芝生を活用したくつろぎ空間：紙芝居読み聞かせ】



【展示2日目集合写真】

展示物の提供に協力してくださった方々

白方興業株式会社
定秀寺
垣生地区まちづくり協議会
垣生公民館
松山市立垣生小学校
西村恭子様
鳴門教育大学学術情報推進課
西国三十三所札所会
ニッポンの霊場 HP 管理人



【展示1日目のスクール生】

跳んで！歩いて！大手町通りミュージアム
～「かなしきデブ猫ちゃん」マルと巡る～

JR 松山駅班：

片山暁斗（愛媛大学）、河村明紀（松山大学）、
寒竹悠子（株式会社ウエスコ）、
春木信二（今治市役所）、福岡真優（松山市役所）、
吉岡康介（松山市役所）、平田和也（伊予市役所）、
山内海人（伊予市役所）、
三谷卓摩（UDCM ディレクター）、
山之内崇（UDCM プロジェクトディレクター）、
松尾悠馬（UDCM 学生スタッフ）

■企画の背景と目的

【背景】

大手町通りは、JR 松山駅と城山公園、松山市の中心地区をつなぐ重要な都市軸である。1934 年には、松山市で承認された都市計画街路の中で最大幅員である 22m で計画され、松山で初めての歩道が付けられた。現在、JR 松山駅周辺では鉄道の高架化や民間開発が進められている。また、今後は、バスターミナルの整備、大手町通りの機能強化なども計画されており、駅周辺地域がにぎわいの拠点となることが期待されている。しかしながら、大手町通りを利用する人の数は減少しており、沿道の活気も失われつつある状況にある。そこで、大手町通りの歴史や魅力のある店の存在を伝えることなどを通して、みなが歩いて楽しめる場所にしたいと考えた。



【人通りが少ない大手町通りの様子】



【前日準備の様子】

【目的】

今回の企画では、第一に、大手町通りがそもそも市民にそれほど認知されていない状況を踏まえ、まずは大手町通りに関心を持ってもらうための通り沿いでのイベントを企画している。

第二に、大手町通り全体を活気づけるためのきっかけづくりを目的として、イベントの準備から実施までのプロセスを通して、大手町通り沿い店舗の方と地域住民の方のつながりや、沿道店舗の方同士でのつながりを生むことを意識して取り組んでいる。

第三に、一過性のにぎわいだけでなく、長期的な賑わいの創出につなげることを目的に、イベントへの参加を通して、それぞれの店舗の情報や大手町通りの歴史も知りながら楽しく歩くことができるようなアプローチを試みている。



【ウォークラリーのためのインタビューの様子】



■活動内容

【～大手町を歩いてマルを探せ！～】

この活動では、大手町通り沿いにある店舗の方々に協力していただき、愛媛新聞社前を起点とし最大 12 店舗を歩きながら巡るウォークラリーを実施した。大手町通りを楽しい場所と認知してもらうために、歩道にマル（愛媛新聞で連載されていた創作童話のキャラクター）の足跡や大手町の歴史、各店舗の情報を記載した看板を設置し、視覚的に楽しめる工夫も施した。また、事前に行ったそれぞれの店舗へのインタビュー結果をまとめたカードを、予め各店舗に設置しておくことで、始点で配布したクイズ用紙の答え合わせをしながら回れるようにもした。工夫した点として、お店の中にカードを設置することで、参加者が、どのような雰囲気のお店なのかを体感してもらえるようにした。



【店舗紹介カードの様子】

【なわとびをする様子】

【～マルの遊び場で大なわとび！～】

この活動では、愛媛新聞社前広場を会場にして大なわとびを実施した。なわとびの大きな掛け声が歩く人たちの関心を引き、歓声や拍手も合わさって、友人や家族をはじめ、その場に居合わせた人全員が一体となって大手町通りに賑わいをもたらし、大手町通りが楽しい場所であるということを認知してもらうための活動を行った。また、地域の方や大手町通り沿いの店舗の方々にとっての交流の場とするため、広場に芝生や机、椅子を置き、飲み物やお菓子を提供した。さらに、マルの絵本や意見を書き込めるホワイトボードも設置することで、より一層交流が生まれるような空間づくりを心掛けた。



【参加者の意見や感想】

■成果

ウォークラリーには108名が参加、大なわとびには95名が参加し、大手町通りに賑わいをもたらすことができた。ウォークラリーの参加者からは、「こんなお店があること知らなかった」「初めて大手町通りをゆっくり歩いて楽しかった」との声があがり、大手町通りの新たな魅力に気づききっかけとなるような反応を得ることができた。この活動を通して、大手町通りにある店舗や歴史といった魅力を発信し、大手町通りは楽しい場所という意識的なアプローチをすることができたと考える。

また、大なわとびでは「1,2,3...」という掛け声とともに、広場に居合わせた人全員が一体となって賑わいをつくることができた。このことが、イベントを知らない歩行者の足を止め、大なわとびの様子や道沿いにある看板を見るきっかけとなったため、より多くの人が大手町通りの歴史や店舗といった魅力を知ることにもつながった。さらに、店舗の方が広場に足を運んでくれたことで、この広場が、地域の方と店舗の方のコミュニティスペースにもなり、新しいつながりを生むきっかけをつくることができたと考ええる。

■得られた課題

この活動を通して、大きく二つの課題を感じた。

一つ目は、賑わいづくりの一過性である。企画実施前から、イベントという形は賑わいが一過性になりがちだということが分かっていたので、私たちは周辺店舗を巻き込んだウォークラリーを実施し、賑わいづくりに加え参加者の大手町通りの魅力発見を図った。一方で、大なわとびに関しては一体感やつながり、賑わいをテーマに行ったが、ウォークラリーとの関係が曖昧になってしまい逆に参加者に趣旨が伝わりにくくなってしまった。

よって、イベントが何を趣旨としているのかをはっきりさせて一貫性をもたせることや、テーマや趣旨の可視化を行うことで賑わいづくりが一過性で終わらないようにするための工夫が必要であった。

二つ目は、事前の準備不足である。時間の都合上、インタビュー調査の対象を、ウォークラリーへ協力を得やすい店舗のみに絞ってしまったため、小売店の方には協力して頂けたが、そうでないお店をあまり巻き込むことができなかった。ウォークラリーだけでなく、大なわとびに参加してもらった依頼も可能だったため、事前の声掛けなどの準備には課題があった。



【ウォークラリー 参加者の様子】



【JR 松山駅班の集合写真】

■今後の展望

今回の活動は、多くの人にとって、大手町通りの魅力を
知るきっかけにはなったが、このきっかけを無駄にしない
ために、今後も魅力の発信やつながりの場の提供を継続的
に行っていくことが重要である。実際に、イベント実施中
や実施後に、店舗の方から「今日で終わりなの？」や「ずっ
とあっていいのにな」といった声が挙げられた。対応策
として、このようなイベントを定期的に行うことや、SNS
による発信を行うなど、今回のきっかけを一過性のものに
しないような取り組みを行う必要がある。

また、今回は、お店の情報や大手町通りの歴史について
調査を行うことができた。この調査によって作成されたパ
ネルを飾ってくださったお店も何軒かある。これらのこと
も、効果的に発信していくことで大手町通りの魅力の発信
や認知向上に貢献していきたい。



【ウォークラリーのインタビューの様子】



【設置した足跡で遊ぶこどもの様子】



【受付の様子】

ご協力してくださった方々

愛媛新聞社
大森正和 様
西山泰弘 様
伊藤賢司 様
山本菜奈 様
Pieceful Coffee Roaster
島田康寛 様
自家焙煎珈琲モア
堀久雄 様
大久保久信 様

Coffee&Kitchen Annette
石原桂子 様
ALGERNON shiro Smart Salon
竹内 様
一進流珈琲屋
相原 様
MORE MUSIC
大久保一恵 様
THUNDER
黒河ひとみ 様

おうちごはん てんさいとう
松村隆司 様
NAVY BAGELS 様
愛媛 CATV
森知彦 様
阿部理恵 様
吉田明子 様
ファミリーマート大手町店
橋本薫 様
石元商店 様



【展示の様子】



【白地図記入】

6) 2023 年度 UDSC スクール修了式

2024 年 1 月 16 日（火）、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の修了式が「愛媛 CATV オープンスクエア」にて開催された。本スクールは、スクール受講生を中心に、さまざまな人々が協力しながら築き上げてきた学びのプログラムである。各班のスクール活動が無事終了し、受講生にとって充実した内容になったことを運営メンバー一同はうれしく思う。開催の様子を、修了式出席者のコメントを中心に、スクール TA を務める学生スタッフ（松尾）のレポートにて振り返る。

【開会挨拶】

はじめに羽藤センター長からは「地域デザインミュージアム」というテーマに受講生の皆さんが取り組んだことが契機となり、松山で暮らす人に伝わることで新たな取り組みが産声をあげそうな段階に達しているとのお話がありました。合わせて、これから始ま



挨拶の様子(羽藤センター長)

る修了式に和気あいあいと楽しんで臨んでいただいたとのことのお言葉をいただきました。

【各グループの活動報告】

まちなか班

はじめに、大手町通りが利用者にとって目的地に行くための通過点になっていることに注目した結果、「今まで気付かなかったまちなかにある魅力を発見しても

らうこと」を目的として活動を行ったとの報告がありました。つづけて、「ココどこ？まち探検マップ」についての説明がありました。JR 松山駅と松山市駅をつなぐエリアにて、気になったお店やスポットを撮影して作成したマップであり、マップに掲載されている写真の場所を探してもらい、見つけることができた場所の数に応じてオリジナルグッズやマップエリア内にあるお店の商品を景品としてお渡しすることで各店舗の PR に繋がったとの工夫点が挙げられました。一方、「ココきて！らくがき」スポットでは、参加者に絵の具やクレヨンで思い思いの絵を描いてもらい、普段家ではできないような大胆なお絵描きがコンセプトとされていました。成果として、計 134 名に参加いただき、参加者からは「知らないスポットを知るきっかけとなって良かった」との意見を多くいただいた結果となりました。今後の展望として、継続的にまちを歩いてもらうきっかけづくりを行うことでまちの魅力発見・再認識だけでなく、新たなコミュニティの創出につなげたいとの言葉をもって活動報告が終了しました。



報告の様子

参加した受講生からは、「通っているけど気づかないような場所を再認識でき、自分たちやまちの人にとっていい活動となった」とのコメントがありました。担当したディレクターからは、「自分たちがやりたいことをそれぞれが実現できていた点が良く、班員が集まって話すことはチームを作るための重要なプロセスであった」とのコメントがありました。羽藤センター長からは、「空間を場所にするとき、自分たちが楽し

んで居場所化していたことが素晴らしかった。新しい文化的な表現がミュージアムにあって、皆さんが実体験として作れたことが発展性のある仕組みになっていたことが良かった」とのお言葉をいただきました。

郊外班（久米チーム）

はじめに、「昭和の久米商店街」「温泉」に焦点を当てることになり、住んでいる地域の歴史や地域資源を様々な展示方法で伝え、地域の人々の記憶を掘り起こすことで久米地区が持つ魅力や可能性を再認識するきっかけの場になることを目的として活動を行ったとの報告がありました。つづけて、「昭和の久米商店街と東道後温泉郷の歴史」についての説明がありました。久米地区の昔と今の写真を展示するほか、地域の方から聞いたエピソードを壁一面に展示することで、思い出話に花を咲かせられる場所の創出に尽力したようです。

また、「手湯体験」では、エリアの前に人工芝をひき、銭湯の椅子を設置することで参加者がリラックスして交流できる空間を演出したことが工夫点として挙げられました。成果として、計464名の方に参加いただき、参加者からは「これからもずっと開催して欲しい」「〇〇についても取り上げて欲しい」などの要望が上がりました。今回の感想として、展示を通して久米の人びとの暖かみに支えられ、日々成長するミュージアムにすることができたとの言葉をもって活動報告が終了しました。



報告の様子

参加した受講生からは、「久米に足を運んだことがなかったが、知れば知るほど面白いと感じることが多く、地域の活性化に自分自身が関わることができて貴重な経験となった」とのコメントがありました。羽藤センター長からは、「社会人と学生のコラボレーションがあって印象に残った。底力がすごく、レベルの高い展示ができていた点が良かった」とのお言葉をいただきました。

郊外班（垣生チーム）

はじめに、松山市の西南端に位置する垣生地区は松山の交通・交流拠点に容易にアクセス可能な点に注目し、展示を通じて垣生の歴史・文化を地域内外の人に伝えて魅力を感じていただくことを目的として活動を行ったとの報告がありました。つづいて、「伊予かすり、今出西国三十三観音、垣生の風景」の3点の展示について説明がありました。伊予かすりをを用いて、過去・現在・未来をイメージしたストリングアートを製作・展示したほか、



報告の様子

「鍵谷カナ・伊予かすり創始物語」の絵本を作成しました。

また、今出西国三十三観音や垣生の風景では、解説や問題提起を行ったり、時代とともに移り変わる地図を展示したりすることによって垣生について考え、魅力を再発見してもらうことが工夫点として挙げられました。成果として計146名の方に参加していただき、参加者からは「垣生に住んでいるが知らないことがあった」との意見がありました。今後の展望として、現在失われつつある地域文化をつなぐために、見たい・残したいような地域づくりが大切であるとの言葉をもって活動報告が終了しました。

参加した受講生からは、「地域の方のたまり場となって、一人当たりの滞在時間が長く、濃密な空間ができて良かったと思う。」とのコメントがありました。担当したディレクターからは、「これから、地域で資源が知れ渡っていくような素晴らしい取り組みだったと思う」との言葉がありました。羽藤センター長からは、「価値観が変わっていく中で、グループ内で継続して活動することや、手堅く調べたりすることの重要性を感じ、子どもに何か残せるのものがあったことが良かった。」とのお言葉がありました。



コメントの様子

JR 松山駅班

はじめに、大手町通りの活気がないことに注目し、大手町通りの歴史や魅力ある店舗の存在を伝えることを通して歩いて楽しめる場所を演出して、イベントを実施することで長期的な賑わいを創出することを目的として活動を行ったとの報告がありました。

つづいて、「～大手町を歩いてマルを探せ～」についての説明がありました。大手町通りの周辺を巡るウォークラリーであり、歩道に愛媛新聞で連載されていた創作童話のキャラクターである「マル」の足跡や各店舗の情報を記載した看板を設置することで視覚的に楽しめる工夫を行ったようです。また、「～マルの遊び場で大なわとび!～」についての説明がありました。愛媛新聞社前広場を会場にして大なわとびを実施するほか、地域の方の交流の場となるような芝生や机、椅子を設置、飲み物やお菓子を提供、意見を書き込めるホワイトボードの設営などの空間づくりの工夫が多く挙げられました。成果として、計 203 名に参加いただき、参加者からは「こ



報告の様子

んなお店があることを知らなかった」などの気づきの意見が多く見られました。今後の展望として、イベントの趣旨やテーマを可視化することの重要性、一過性にならない工夫が必要であるとの言葉をもって活動報告が終了しました。

参加した受講生からは、「たくさんの魅力あるお店をしかたこと、全国や世界でも通用する魅力的なお店があり、それを伝えることができて良かった」とのコメントがありました。担当したディレクターからは、「活動後に大手町通りのお店に行く機会が増え、活動が広がったことによって大手町通りの話題を話すことができたことが良かった」とのお話がありました。羽藤センター長からは、「本質的なデザインをあの場所に対して働きかけていた点が良かった。また、アプローチによって生み出される関係性そのものがデザインの本質であることが著実であった」とのお言葉をいただきました。



コメントの様子

【修了証授与】



授与の様子



修了式（現地会場）の様子

【閉会挨拶】

羽藤センター長から、何に心を動かされたのか、みんなで共有できる場であったことが素晴らしく、一人一人が持っている力は弱いものであるが、結集することによって参加した方の心を動かすことを生み出したことが、これからの地域デザインの在り方を示しているとの言葉をいただきました。そして、現在松山がおかれている状況は生易しいものではなく、このような中で私たちにできることを普段の生活を離れて考えることができるか、当事者性をもって考えることができるか、自分が動くことによって人が動く、このような確かな関係が地域に今、必要とされているとの言葉をもって修了式を締めくくりました。（TA 松尾）



挨拶の様子（羽藤センター長）



UDSC スクールまとめページの
二次元バーコード
(2023 年度プロジェクトレポート)



全体トーク後の集合写真（上段 7/15、下段 1/15）

(2) 都市回遊型社会実験『urban design week.2023』

1) 概要

『urban design week.2023』（以降「UDweek.」とする）は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施による都市回遊型の社会実験である。受講生やプロジェクトメンバーたちが、市内各地をフィールドとして、豊かな空間と機会（プログラム）づくりに取り組んだ。都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちづくりについて参加者と共に考えることを目的とした。



開催テーマ画像

2) コンセプト

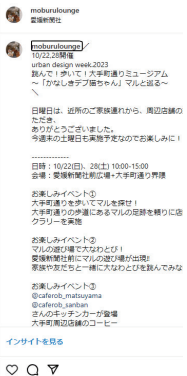
コミュニティ・キャンバス
～まちを塗り変える～

私たちの暮らすまち、それは私たちの人生が織りなす物語であり、人々の記憶が刻まれた歴史です。そんなまちとつながり、まちの魅力を再発見することは、単なる地形的な距離を縮めるだけでなく、そのまちの歴史や文化、人々との絆を深め、まちへの愛着を育みます。urban design week. では、まちをキャンバスと捉え、これからの新たなまちの姿を描きだすことにチャレンジします。みなさんと新たなまちへ、その第一歩を踏み出せる日を楽しみにしています。

3) 広報（情報発信）

UDweek. 開催についての事前広報は、主に次の4つの方法でおこなった。

1. SNS (Instagram)
2. 市内各所でのパンフレットの配布
3. 総合案内所設置 (UDCM もぶるラウンジ)
4. UDSC スクール関係者等への声かけ



Instagram アカUNT
二次元バーコード



48

4) プログラム

2023年10月21日～29日の間、8つのプログラムが松山市内各所にて開催された。順に開催概要と結果を個別に記載する。

- ① ココきて！らくがき ココどこ？まち探検
- ② くめはぶ・ええとこじゃろミュージアム
～昭和の東道後温泉郷をめぐる～
- ③ くめはぶ・ええとこじゃろミュージアム
～いまむかし 今出の緋 垣生めぐり～
- ④ 跳んで！歩いて！大手町通りミュージアム
～「かなしきデブ猫ちゃん」マルと巡る～
- ⑤ まつやま歴史まちあるき（くるりん編）
- ⑥ まちなか mini HiROBA
- ⑦ UDCM ものがたり
～花園で育むまちづくりの芽～

⑧ 夕焼けベンチ+裏道後ツアー
※①～④は、本章（1）5）に記載

※⑤は、5章（1）に記載

※⑥は、本章（3）に記載

※⑧は、5章（2）に記載

⑦ UDCM ものがたり～花園で育むまちづくりの芽～

本プログラムは、urban design week.2023 の連動企画として、学生スタッフを中心にもぶるラウンジで実施した。以下、本プログラムを担当した学生スタッフ2名（高橋、的場）による実施レポートにて振り返る。

UDCM は2014年4月に設立し、松山市の公共空間の賑わい創出を目指して「創る・交わる・学ぶ・知る」を基本コンセプトとした様々な活動を行ってきた。そんなUDCMも2024年で設立10周年を迎える。そこで、来館された方々にこれまでのUDCMともぶるラウンジの歩んできた道のりを知り、松山のまちづくりの軌跡をたどっていただくとともに、未来の松山や花園町通りを想像してほしいという思いから、10年間を振り返る年表を作成することを企画した。

年表作成にあたって、2022年度のスクール受講生が作成したUDCMのこれまでの活動年表の内容を基に、主要な出来事や活動背景などを確認し、新たに作成する年表に掲載する出来事を整理した。収集した情報を基にエクセルで表を作成して一覧化し、「創る・交わる・学ぶ・知る」の4つの基本コンセプトに分類することで、活動の目的が分かりやすく伝わるように工夫した。年表でも分類が分かるように丸印で色分けを行った。

年表に掲載する内容を検討した後、年表のデザインや展示方法のアイデア出しを行った。花園町通りと聞いて思い浮かべるものを話し合い、電車や線路、イチョウ、オレンジ色といったイメージがあることが明らかとなった。それらをモチーフに、分かりやすさを重視して文字の大きさやフォント、配置や色を微調整しながらデザインを決定した。展示物は、大きな木枠（縦126cm×横51cm）を3枚用意して三つ折り状とし、触ってみたいくなるような仕掛けを施した。

また、年表として展示するだけでなく、実際の活動の様子や雰囲気を感じてもらうことを目的に、過去の音源や冊子を活用し、来館者の興味を引くような展示を心掛けた。音源は、2015年4月から開始した、まちなか情報発信番組FM愛媛「まち@ラヂ」の放送をCDに書き込み、CDプレイヤーで自由に試聴できるコーナーを設けたことで、取り組みをより身近に感じてもらうことができた。また、2016年10月から発行を開始した、まちなか情報発信フリーペーパーまちなかマガジン「もぶる」全15冊を展示し、実際に手に取って楽しめるように工夫した。



展示を見る様子



「まち@ラヂ」を試聴する様子

今回の企画を通して、年表を見た人が、未来の松山や花園町通りを想像してわくわくできるような展示ができたのではないかと思います。また、企画を担当した自分たちにとっても UDCM ともぶるラウンジのこれまでの活動を振り返る良い機会となり、まちづくりの拠点としてだけでなく、人が集い、交流し、滞在する拠点としての機能を果たしていることを実感することができました。これからも様々な活動を通して地域の人々とつながり、素敵な UDCM ものがたりを紡いでいきたい。

5) 開催結果

UDweek. 全体では、のべ 1891 名に参加いただいた。
各プログラムの参加人数は、以下のとおりである。

プログラム名	開催 日数	参加 人数
①ココきて！らくがき ココどこ？まち探検	3	193
②くめはぶ・ええとこじゃる ミュージアム ～昭和の東道後温泉郷を めぐる～	6	470
③くめはぶ・ええとこじゃる ミュージアム ～いまむかし 今出の絣 垣生めぐり～	6	146
④跳んで！歩いて！ 大手町通りミュージアム ～「かなしきデブ猫ちゃん」 マルと巡る～	2	203
⑤まつやま歴史まちあるき (くるりん編)	9	158
⑥まちなか mini HiROBA	9	710
⑦UDCM ものがたり ～花園で育むまちづくりの芽～	9	—
⑧夕焼けベンチ+裏道後ツアー	2	11

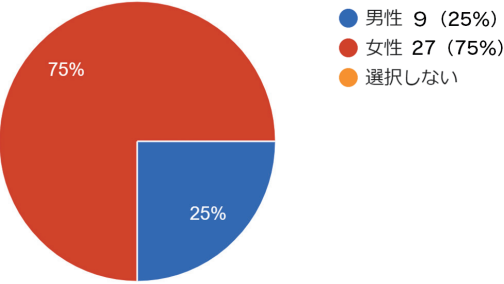
UDweek. 参加者アンケート調査

【調査概要】

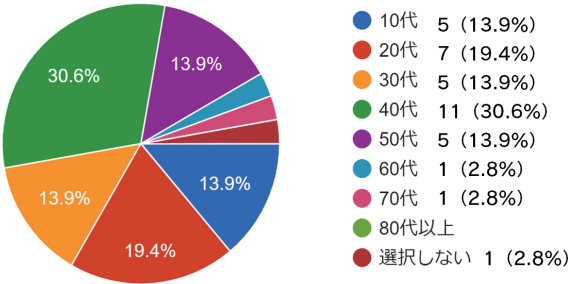
期間：2022 年 10 月 21 日～ 10 月 29 日の 9 日間
方法：アンケート形式（Google フォーム）
対象：UDweek. 参加者
回答数：36

【調査結果】

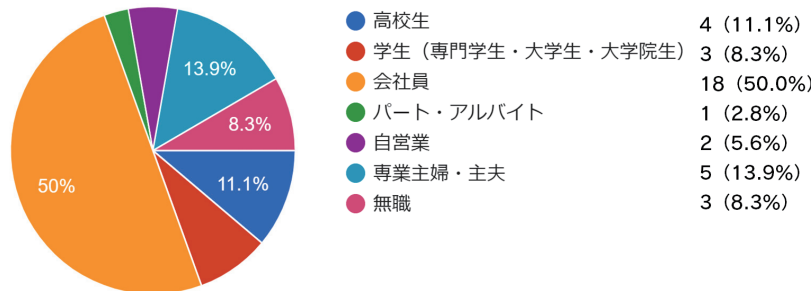
回答者の性別（N=36）



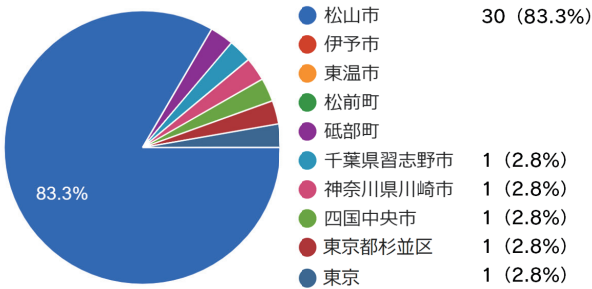
回答者の年代（N=36）



回答者の職業（N=36）



回答者の居住地（N=36）

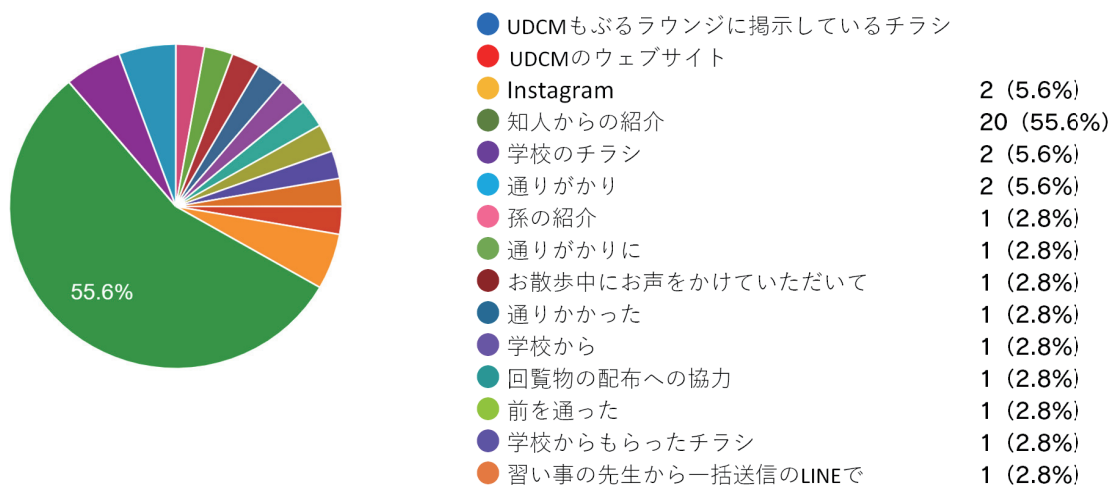


回答者の属性は、約 8 割が女性、約 2 割が男性であり、年代は、多い方から 40 代（30.6%）、20 代（19.4%）、10・30・50 代（13.9%）であった。居住地は、約 8 割が松山市であり、周辺市町からの参加者はいなかった。

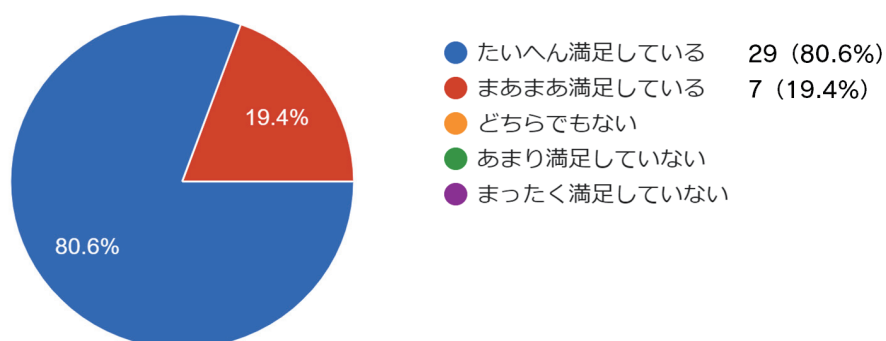
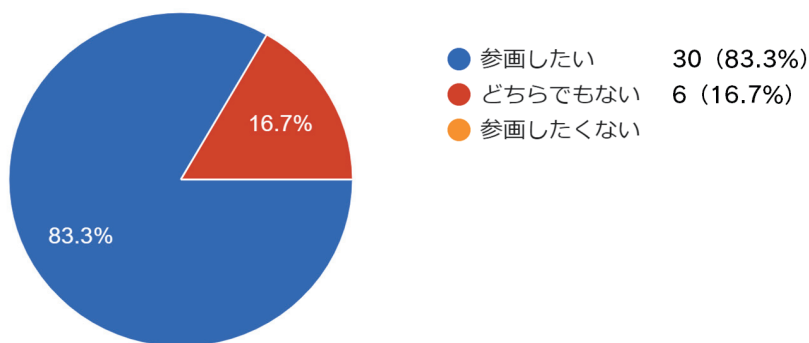


地域の方から話を聞く受講生

回答者の参加したきっかけ (N=36)



回答者がUDweek.に参加したきっかけとして、どのように開催情報を得たのかについては、「知人からの紹介で知った(55.6%、N=20)」が最も回答数が多かったが、学校や地区へのチラシ配布の効果も少数だけが見られた。



【プログラム満足度の理由】

- ・地域の名所が写る写真が数多くあり、地域の発展の変遷を知ることができたため。
- ・伊予絣の誕生の歴史を知ることができ、地域史に触れることができたから。
- ・垣生のカスリの創始者や垣生とカスリの繋がりを知ることができた。
- ・景品が嬉しかった。
- ・ウォークラリーで、初めて知ったお店や、お店の人の背景など知れてちょっと身近に感じました。
- ・普段歩かない所を歩く事ができました。新鮮でした。
- ・おうちの近くの行ったことのないお店を知ることができました。
- ・展示のアルバムがとても素敵で 行きたくなりました。みかんの種類の説明も楽しかったです。
- ・スタッフの雰囲気が良かった
- ・縄跳びがいっぱいとべたから
- ・大手町の魅力を紹介
- ・初めてきた松山の観光の指標になったから
- ・新しいまちの見方を知ることができた
- ・楽しくウォーキングできました！ 子供たちが喜んでました！
- ・大手町を歩いてカードを探す企画をした。知らないカフェ等を知ることができたから満足した。
- ・伊予絣を使った学生制作の展示物が綺麗
- ・伊予絣の創始者鍵谷カナさんの歴史を知ることが出来てよかった。
- ・鍵谷カナさんの絵本展示がイラストも可愛く、理解しやすかった。「紡ぐ」の展示もインパクトがあって印象に残った。全体的に垣生の宝の良さが伝わる展示だった。
- ・くめはぶ・ええとこじゃろミュージアム ～いまむかし 今出の絣 垣生めぐり～について、伊予絣の現物をこれまで見たことがなく、鍵谷カナさんの物語を描いた絵本や、実物の展示によって自分の知らなかった松山の歴史を新たに学ぶことができたので、大変満足しました。
- ・紙芝居など分かりやすく説明されていたり、親近感の持てる展示が多かったから。

- ・クイズラリーで新しいカフェにたくさん出会えたから
- ・新しい場所が知れて良かった。カフェなど
- ・マルと一緒に街歩きをして、色々知らなかったところを発見できて楽しかったです。
- ・縄跳びを 33 回飛んだ！！！！
- ・縄跳びとんだ。楽しかった。自分の体力の限界を知ることが出来たから。
- ・家の近所の入ったことのないお店に入れて新鮮でした
- ・ウォークラリーで知らないことが沢山あると気づけました
- ・自分が住んでいる街の良さを再発見できた。カードを見てお店の情報を色々知れて楽しかったです。
- ・ポイントのお店の紹介で知らなかったことが多く面白く感じお店を身近に混じることが出来た
- ・子供が楽しめるように景品など工夫をしてくださっていたり、スタッフの方々が全力で縄をまわしてくださっていました。気配りもしてくださり、大変楽しい時間を過ごすことができました。また参加したいです。
- ・鍵谷カナさんの名前は知っていたけど、どんな人かは全く知らなかったもので、藍染め体験含めてとても興味深かったです。また、大手町はふだん通り過ぎるだけのことが多いですが、新しいお店を知れたりして楽しかったです！
- ・垣生の西国めぐりの全体像や愛媛県内の西国巡りのルーツを知れて興味深かったです。子どもと町を知りきっかけになりました。一緒に散歩しながら巡ってみます。
- ・久米と垣生の展示。人々の生活の歴史に、温かみを感じた。インタビューする人も協力してくれた人も、心意気が素敵でした。
- ・くめ・はぶ、どちらも地元の人の視点で情報が見られて、暮らしやコミュニティのイキイキした感じが伝わり面白かったです。デブ猫ちゃん、設問や回遊を通じて、素敵なカフェが沢山あったり町の印象が変わりました。

【urban design week. へのご意見・ご感想】

- ・同様の取り組みを全地域で行ったうえで、他の地域の情報を共有できる仕組みがあれば良いと思う
- ・垣生には初めて訪問しました。松山の郊外の雰囲気も知ることができて面白かったです。ありがとうございました！
- ・自分の地区の企画も見てみたい。
- ・運動にもなってよかった
- ・初めて知ったお店もあって、楽しかったです。
- ・普段知らない事を何かのきっかけで紹介する事は良いと思う
- ・お声がけしていただかないと気付かなかったイベントでしたがよいさんぽになりました。ありがとうございました。
- ・素敵なイベントだと思います
- ・松山駅周辺の整備を今後も頑張って欲しい。
- ・スタッフの笑顔が良くまた参加したいと思いました。
- ・新しいお店を知ることができた
- ・新鮮に感じ良かった
- ・お店の人とお話できた
- ・美味しそうなお店がたくさんあった
- ・知らないカフェ等を知れて今度行ってみたいと思った。
- ・可能なら市域を広げられたら楽しいかな
- ・絵本のイラストがとても上手でした。
- ・松山市で進めている「フィールドミュージアム」の実現にもつながる取組だと感じた。今後もこうした取組が地域全体で広がっていけば良い。
- ・夕焼けベンチは、昨年家族とペットのわんちゃんとともに参加しました。宝蔵寺から見る夕焼けがきれいで、参加してよかったと思っています。これからも楽しい企画を期待しています！
- ・今まで知らなかったことを知れたのでよかったです。参加している人が少ないように感じたので、もう少し参加してくれる人が増えたらいいなと思いました！
- ・コーヒー屋さんが多いこと
- ・面白そうだった
- ・楽しかった
- ・松山のことをさらに知れて、松山がまた好きになりました

ました

- ・新しいお店にいつてみたい
- ・広い範囲のイベントは子供連れで楽しく参加出来ました
- ・お店の魅力を新たに知ることができてとても楽しかったです。
- ・街の魅力を知れてよかったです。
- ・子供が体を使って楽しめる企画をありがとうございました。また参加したいです。
- ・ふだんなかなかまちのことをゆっくり考える時間がないですが、久しぶりにまちを楽しむことができました。ありがとうございました！
- ・垣生久米線という道から垣生と久米歴史的な何かに興味を持っていました。久米の展示も見に行けたら良かったです。気に入ります。
- ・とても素晴らしい取組だと思います。想ったより沢山歩きましたが、魅力を自分の足で確かめながら、展示会場の皆様とお話できて良かったです。
- ・展示を観に来られていた地元の皆さんの会話や雰囲気から、人の繋がりもしっかりしたよいまちだなと強く感じました。



大手町通り周辺のまち歩きを楽しむ参加者

総括

郊外班の久米・垣生チームでは、歴史の息吹を感じる路地裏を歩きながら、参加者たちはその地域の物語に耳を傾けていた。かつて栄えたまち、人々の暮らし、そして時代とともに移りゆく風景。その一つ一つが、参加者の心に深く刻まれた。

「こんな歴史があったなんて、知らなかった。」

驚きと感動の表情で語り合う参加者たちは、歴史を知ること、自分が住んでいる地域への理解が深まり、愛着が湧いたのではないだろうか。

まちなか班、JR 松山駅班では、活気に満ちたまちかどに、笑顔と笑い声が響き渡った。参加者たちは、まちあるき、らくがき、大縄跳びなど、様々なアクティビティを通して、まちと一体となり楽しんでいた。

色鮮やかに描かれた落書きは、まるでまち全体がキャンバスになったかのように。大縄跳びの軽快なリズムは、まちの鼓動のように響き、人々の心を一つにしていた。

「まちを塗り替え、新たなコミュニティを創出する」というコンセプトを掲げたコミュニティ・キャンバス。受講生たちは、その目標を鮮やかに達成してみせた。

今後も、様々な地域と向き合い、人々が集い、語り合い、共に未来を創造していく場を提供していく予定である。



(3) urban design week. と連動した滞留空間創出事業の実施

1) 概要

2026 年度、松山市の安全・快適な歩行空間の形成や、にぎわい・憩い空間の創出などを目的に、市内最大の交通結節点である松山市駅前に交流広場が誕生する。コンセプトは『人々の往来と賑わいを「つなぐ」松山の交通・交流拠点』。緑やベンチ、イベント設備等を備えた新たな「シンボル広場」となることを目指している。

新たな公共空間の誕生に対する市民の期待を高めるため、松山アーバンデザインセンターでは、バス停跡地を活用し、駅前広場をイメージした小さな滞留拠点を設置。urban design week. 2023 の開催と合わせて、植栽(緑)に囲まれた、誰もがゆったりと滞在できる(ベンチがある)憩い空間「まちなか mini HiROBA」を創出した。

まちなか mini HiROBA

期間：2023 年 10 月 21 日～10 月 29 日の 9 日間

場所：伊予鉄道 松山市駅 5 番・6 番乗り場跡地
(松山市湊町 5 丁目 3)

空間コンセプト：

まちなかで自然を感じながら、ゆったりとくつろげる憩いの mini ひろば

主催：松山アーバンデザインセンター

協力：伊予匠ノ会／HIFUMI 合同会社



まちなか mini HiROBA の全体像

2) 空間の特徴

「まちなか mini HiROBA」には、大きく 3 つの特徴が挙げられる。

① いろいろな使い方ができる空間に

「まちなか mini HiROBA」は、松山市の建築に関する専門家集団「伊予匠ノ会」協力の元、設計・施工を行った。空間は、用途に合わせてレイアウトを自在に変更できるように、96 個の木製 BOX を使用している。箱型の木製 BOX を、横に並べればベンチ、積み重ねれば背もたれやテーブル、蓋を取り外せばプランターなど、同じユニットを活用して構成しているため、統一感のある空間が誕生している。また、日常的な滞留空間だけでなく、非日常的なイベント利用に合わせて、簡単に用途を変更できるようになっている。

② 植物に囲まれた癒しの空間に

今回は「ゆったりとくつろげる」空間を目指し、植栽に囲まれた憩い空間を演出した。造園会社「HIFUMI 合同会社」協力のもと、アカマツやカゴノキなど、松山に縁のある多数の植栽を使用し、まちなかに「森」が誕生したような空間構成にすることで、利用者は自然の「癒し」を体験することができる。同時に、通行人や他の利用者からの視線を自然物で遮断することで、圧迫感ない落ち着いた利用を実現した。



まちなか mini HiROBA コンセプト (パネル)

③ 地元からも愛着を持ってもらえる空間に

現在、松山市駅前の整備に伴い伐採した街路樹（イチヨウの木）を、再び地元住民に愛される姿に生まれ変わらせるための方法が検討されている。イチヨウは主に家財等で使用される材質だが、今回製作した木製BOXに同材質を使用することで、屋外利用の有効性を確認した（なお、今回使用した木材は、伐採されたイチヨウとは別の木である）。

また、今回使用した木製BOX製作の際には、ワークショップ「大工さんと一緒にイスづくり体験をしませんか？（2023年9月17日開催）」を実施し、32組の参加者に38個製作してもらった。BOXの内側に製作者のイニシャル等を書き込むことで、参加者が本事業に対して愛着を持ってもらえるように工夫した。



製作ワークショップのチラシ



製作ワークショップの様子

3) 実施期間中の利用の様子

「まちなか mini HiROBA」は、松山市駅の近くということもあり視認性が高く、空間を開放した初日から利用がみられた。

平日は、日中のどの時間帯も一定的に利用があり、1人で短時間（1分程度の）利用が多い傾向にあった。アクティビティとしては、広場の中を歩き回ったり、BOXや植栽に触るなど、「空間に興味を示す行動」、空間に腰かけて昼食を取ったり、スマートフォンに触るなど「1人の時間を過ごす行動」がみられた。ただし、同時期に気温が急激に下がったため、期間中は夜間の利用が確認できなかった。

一方で、休日は、10時台や13時台、15時台など、一部の時間帯に利用が集中し、複数名で比較的長期滞在が多い傾向にあった。アクティビティとしても、同行者とのおしゃべりや、フォトスポットとしての利用など、「誰かと楽しむ行動」が多かった。また、電停が見えるロケーションということもあり、路面電車の発着の瞬間を撮影している利用者の姿も確認できた。

利用者からの「こういう気軽に座れる場所が欲しかった」や、「緑に囲まれてゆったりできていいね」など、空間に対する前向きな声も複数得られた。

以上から、本事業は9日間という短期間の実施であったが、将来市駅前に広場ができるための機運醸成としても良い影響を与えることができたと考えられる。



憩い空間でくつろぐ様子（イメージ）

(4) 令和5年度 市駅前広場「つなぐ」ワークショップの支援

1) 事業の概要

2026年度、松山市駅前に誕生する「駅前広場」が、より楽しく・多くの人で賑わう場所になるため、今後のエリアマネジメント活動の展開における実践的な戦略立案に向けたワークショップが、2023年度より松山市主催で開催された。

2023年度は、エリアマネジメントの醸成に向けた第1段階として、新たに整備される交流広場のことを知り、整備後の利活用策を地元の方やまちづくり活動に関心のある関係者が一緒になって考えることを目的に『令和5年度 市駅前広場「つなぐ」ワークショップ』が開催された(全3回)。本事業の開催概要を以下に整理する。

令和5年度 市駅前広場「つなぐ」ワークショップ

主 催：松山市 都市整備部 都市・計画課

後 援：松山アーバンデザインセンター

出 席 者：地元関係者等

地元商店街、民間企業、マルシェ出店者、
建築専門家、大学生 等

① 歩いてくらせるまち 松山市駅前広場「つなぐ」 ワークショップ vol.1 (第1回)

実施日：2023年10月27日 14:30～16:45

場 所：松山市役所第4別館第一会議室

テーマ：ひとの賑わいをつなぐ ひとの往来をつなぐ

松山の歴史・文化をつなぐ

みんなの想いを「つなぐ」交流広場へ

実施プログラム：

① 市駅前まちあるき見学会

② PLACE GAME まちづくりワークショップ

第1回の前半は、松山市駅周辺の現状や、市駅前広場に関して、インプットするための現地見学会を実施した。また、同時期に開催した「まちなか mini HiROBA」を案内し、滞留空間に関する事例も紹介した。参加者は現地見学会で市駅前周辺の空間について評価を行った。後半は、現地見学会の内容をもとに、参加者同士でディスカッションを行った。

2) 支援内容

松山アーバンデザインセンターは、本事業のアドバイザーとして参画し、本ワークショップの全体企画に対するアドバイスおよび、各プログラムの運営支援を行った。



現地見学会の様子（まちなか mini HiROBA）

② 歩いてくらせるまち 松山市駅前広場「つなぐ」 ワークショップ vol.2 (第2回)

実施日：2023年12月13日 14:00～16:15

場 所：松山市役所第4別館第一会議室

テーマ：みんなの願いを「つなぐ」交流広場へ

仲間と一緒に できることから

はじめてみよう

実施プログラム：

① 成功への仮説を立てよう！

② みんなでプレイスメイキング～！

プロジェクト・ワークショップ

第2回では、第1回ワークショップの振り返り行ったのち、第1回の結果から4つのキーワードを抽出。参加者は興味のあるキーワードをそれぞれ選択し、そのキーワードを軸にしたプロジェクトチームを4つを立ち上げた。

第1回の結果から抽出したキーワード

- 食べ物・買い物 ○ 体験・参加・披露
- のんびり過ごす ○ 居場所と繋がりづくり

③ 歩いてくらせるまち 松山市駅前広場「つなぐ」ワークショップ vol.3 (第3回)

実施日：2024年1月24日 14：00～16：15
場 所：松山市役所第4別館第一会議室
テーマ：みんなの希望を「つなぐ」交流広場へ
ここから始まる市駅前の新たなストーリー
実施プログラム：

- ① チームミーティング
- ② みんなでプレイスメイキングへ！
プロジェクト・ワークショップ

第3回は、第2回で選択したプロジェクトチームを軸に、各チームで実施してみたいプロジェクトについて引き続き検討を行った。企画内容の精度を上げるとともに、実施体制イメージの検討など、2024年度に簡易社会実験を実施することを目標に、プロジェクト内容を具体化した。

なお、本事業としては全3回が修了したが、来秋以降の社会実験実施に向けて、今後も引き続きの活動が期待される。



第1回ワークショップのチラシ（裏表）



第2回ワークショップのチラシ（裏表）



第3回ワークショップのチラシ（裏表）

Chapter

03

まちづくり拠点の運営

UDCMのオフィスに併設されている「もぶるラウンジ」は、休憩やトイレ利用に加え、まちづくりに関する書籍・雑誌等の閲覧、まちづくり活動等を中心とした専用利用ができるスペースである。

2023年度の運営方針を、「UDCM各プロジェクトや周辺地域と連携した企画等を行う。学生スタッフによる企画や一般市民による展示等も広く行い、誰もが気軽に入り交流できる、開かれた空間づくりを図る。」として、取り組んできたもぶるラウンジでの活動について振り返る。

- ・ もぶるラウンジの運営
- ・ 学生スタッフ企画の実施
- ・ ラウンジ展示企画の実施
- ・ その他企画の実施

(1) もぶるラウンジの運営

1) 利用者推移

今年度（2023 年 4 月～2024 年 2 月）のラウンジ利用者は、延べ 9,486 人、月平均は約 862 人であった。前年度（2022 年 4 月～2023 年 2 月）は延べ 6,304 人、月平均は約 573 人であったため、比較すると約 3,182 人利用者が増加した。また COVID-19 の感染拡大期前 2019 年度の利用者数は約 7,200 人で、花園町に移転後、今年度が最も多くの方に利用していただくことができた。

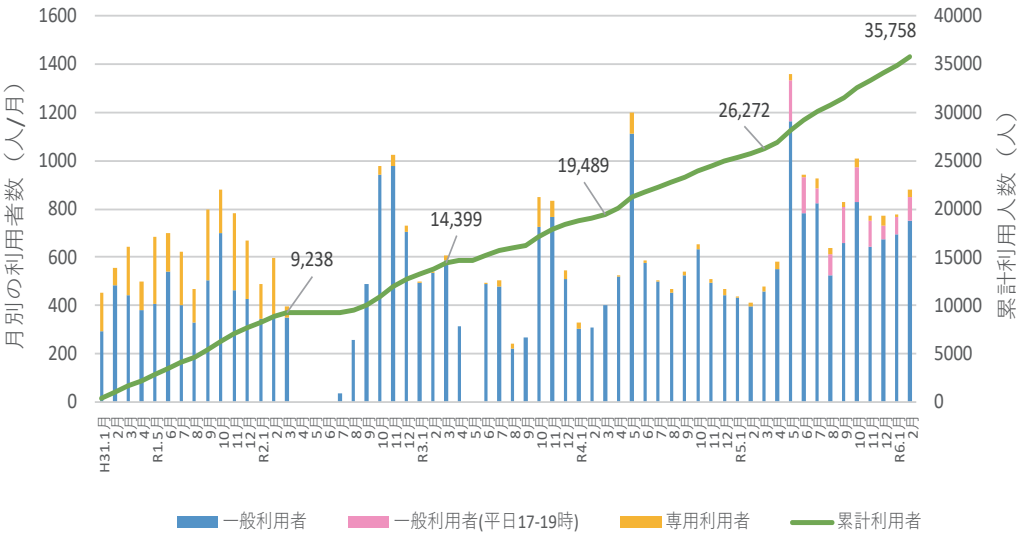
増加した理由の一つとして、今年度 5 月より、平日は閉館時間を 17 時から 19 時に変更し、営業時間を 2 時間延長した。17～19 時の利用者数は、5 月からの 10 ヶ月間で延べ 1,102 人となった。さらに、花園町通りでのイベント時の来館者数の増加や、学生企画の開催数を増やしたことが利用者増に繋がったと思われる。

利用者の属性としては、今年度も平日休日共に 30～50 代の利用割合が約半数を占めていたが、全体的に中・高校生の利用割合も増加した。増加の理由としては、今年度春に、近隣の高校にもぶるラウンジのチラシを配布し多くの学生に知っていただくことができたことと、17:00 以降も開館したことで、授業終わりの学生に勉強や休憩等に利用していただくことができ、合わせて平日 17 時までや休日にも学生の利用者が増加した。ただ、テスト期間などは学生の利用が多く、学生以外の方の席が足りなくなることもあり、席の配置を変更したり前庭にも席を追加する等の対応をした。

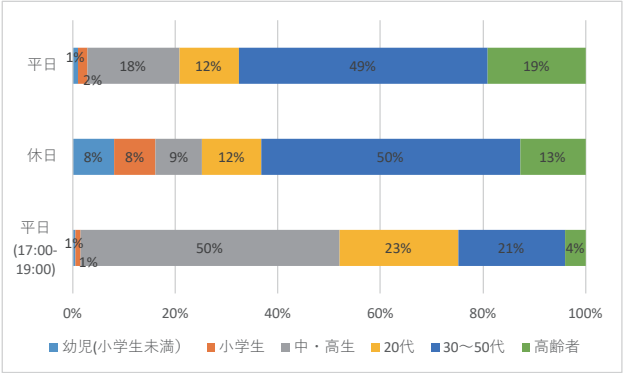
また、お昼時には飲食・休憩に利用するリピーターの方の姿も見られ、リピーター同士の会話や交流の様子も見られた。今後も幅広い年代の方に利用していただけるように、利用者の要望を取り入れつつ、より快適で居心地の良い空間づくりに取り組んでいきたい。



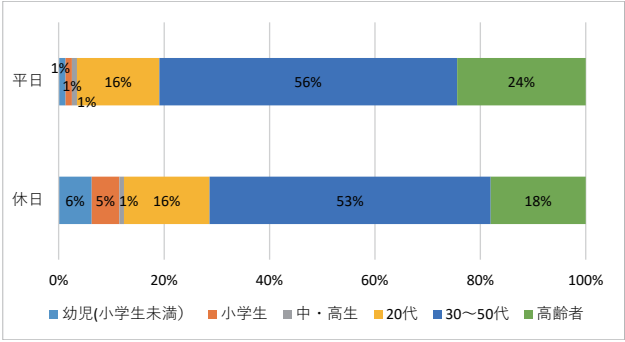
ラウンジ利用の様子



各月利用者数内訳及び累計利用者数



2023 年度 - 利用者属性 (年齢層)



2022 年度 - 利用者属性 (年齢層)

2) 専用利用の傾向

今年度の専用利用（利用予定も含む）は31件であった。次表のとおり、今年度初めての利用が13団体あり、引き続きの利用は4団体であった。伊予弁紙芝居は、前年度と同じくほぼ毎月定期的にご利用いただいた。（冬季はお休み）

新規利用では、句会や打ち合わせ等、一般の方のグループ活動での利用のほか、ラウンジ展示企画の主催者によるワークショップも計5回行っていた。引き続き、グループでの集まりや活動の場として、多くの市民の方に利用していただけるよう周知に取り組んでいきたい。



信子おばさんの伊予弁紙芝居
（花園町通りにて開催）



魅せたい写真を撮る方法（主催：木村知世）



造形遊びワークショップ（主催：ぼめちゃん）

専用利用一覧（UDCM 関係者の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
信子おばさんの伊予弁紙芝居	伊予弁紙芝居	4月23日(日) 13:00~15:00	27
		5月28日(日) 13:00~15:00	16
		6月25日(日) 13:00~15:00	10
		7月23日(日) 13:00~15:00	16
		8月27日(日) 13:00~15:00	15
		9月24日(日) 13:00~15:00	21
		10月22日(日) 13:00~15:00	8
		11月26日(日) 13:00~15:00	23
		12月24日(日) 13:00~15:00	7
哲学カフェ	あまね哲学対話	4月22日(土) 13:00~16:00	4
ナチュラルコスメ作り	アロマサークル	5月20日(土) 10:30~13:00	6
打ち合わせ	わくわく同窓会【新規利用】	5月27日(土) 12:30~16:45	2
イベント利用	一般社団法人フリースクール 愛媛エリート【新規利用】	7月13日(木) 11:00~12:00	6
KENBI友の句会	KENBI友の句会【新規利用】	7月13日(木) 15:00~17:00	5
魅せたい写真を撮る方法（写真教室）	木村知世【新規利用】	7月16日(日) 10:30~14:00	6
打ち合わせ	イイトコ道後	7月21日(金) 10:00~12:15	6
KENBI友の句会	KENBI友の句会	8月5日(土) 12:30~15:30	9
打ち合わせ	七星会【新規利用】	8月28日(月) 10:00~12:00	4
打ち合わせ	七星会	9月5日(火) 10:00~12:00	7

専用利用一覧（UDCM 関係者の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
そぞろ歩きの会	そぞろ歩きの会役員会 【新規利用】	10月20日(金) 10:00~12:00	10
ワークショップ	藤岡勝利 【新規利用】	10月29日(日) 10:00~17:00	26
打ち合わせ	年金受給者協会松山支部 【新規利用】	11月10日(金) 10:00~12:00	10
街づくり講座	NTTアーバンソリューションズ 【新規利用】	12月15日(金) 10:00~17:30	19
造形遊びワークショップ	ぼめちゃん 【新規利用】	12月23日(土) 12:00~15:30	8
		12月24日(日) 12:00~15:30	28
切り絵ワークショップ	ヒノダイゴ 【新規利用】	2024年 1月21日(日) 10:00~15:00	9
役員会	年金受給者協会松山支部	2月6日(火) 13:30~15:00	9
手話カフェ	かえるカフェ 【新規利用】	2月24日(土) 10:00~16:00	21
哲学対話	あまね哲学対話	3月17日(日) 13:00~15:00	利用予定
打ち合わせ	そぞろ歩きの会役員会	3月26日(火) 13:00~16:00	利用予定
アクセサリ作り教室	アクセサリ教室 【新規利用】	3月31日(日) 13:00~17:00	利用予定

3) ライブラリーの活用

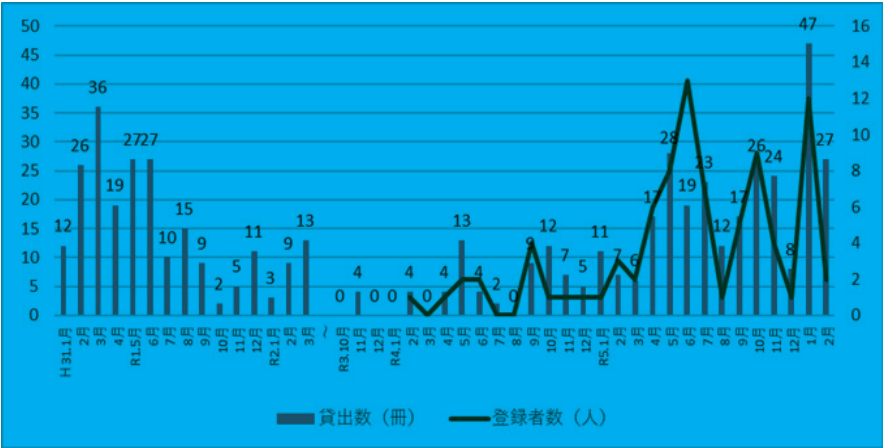
もぶるラウンジには、まちづくりや暮らし、デザインなどに関する蔵書が約 1300 冊あり、自由に閲覧することができる。また利用者登録をいただくと、貸し出しサービスもご利用いただくことができる。

今年度（2023 年 4 月～2024 年 2 月）の図書貸し出し冊数は合計 248 冊、新規貸し出し登録者数は 68 人、2 月末時点での総貸し出し登録者数は 271 人であった。前年度（2022 年 4 月～2023 年 2 月）の図書貸し出し冊数は合計 74 冊、新規貸し出し登録者数は 16 人であったため、今年度はより多くの方に利用していただくことができた。

今年度も、まちづくりに関する書籍のほか、話題の小説やエッセイ、絵本や暮らしの本等を増やし、おすすめ本のコーナーの新設や本棚のレイアウトもこまめに変更するなど、書籍が多くの方の目に留まるよう工夫した。今後も多くの方にライブラリーを知っていただき、もぶるラウンジおよびまちなかへ来ていただくきっかけとなるよう、ライブラリーを活用した取り組みをおこなっていきたい。



木箱を利用した絵本棚



ライブラリー貸し出し状況（H31.1 月～）

(2) 学生スタッフ企画の実施

UDCM では学生スタッフをまちづくりの担い手と捉え、ラウンジ運営や企画実施等を通じて担い手育成に取り組んでいる。一昨年より再開した学生スタッフ企画は、今年度も、花園町通りで毎月開催されている「お城下マルシェ花園」「まつやま花園日曜市」の開催日を中心に実施し、計 14 回おこなった。3 月にも 2 回実施予定でそれも含めると、前年度より 6 回多く企画をおこなうことができた。企画の参加者数は、延べ 702 人となり、参加人数も前年度より 235 人増加（約 3 倍）に繋がった。

学生スタッフ企画は、企画内容の考案、企画書の作成、チラシの作成、材料の準備、当日の運営等、学生主体で進め、ディレクターがサポートを行いながら実施している。ほぼ毎月企画をおこなうことで、徐々に認知されリピーターも増えてきた。

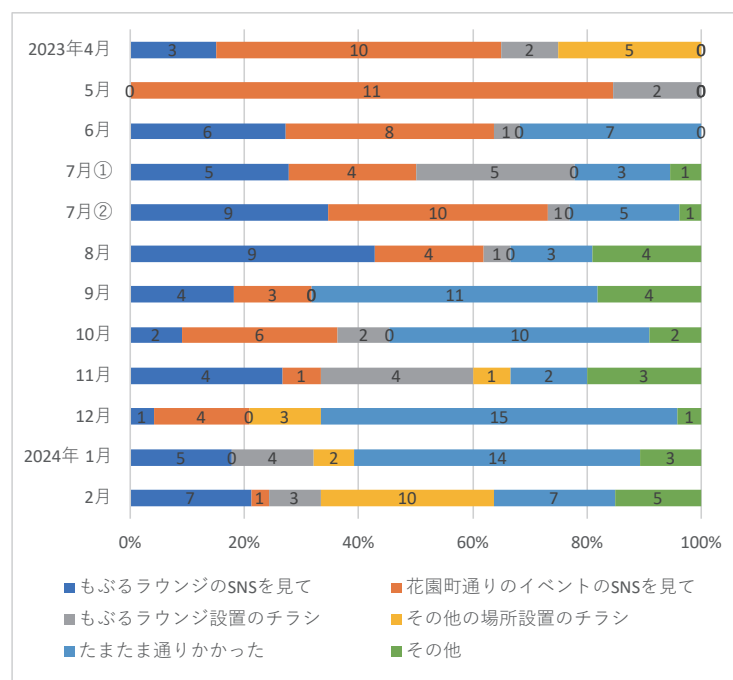
以下、2023 年 4 月～2024 年 2 月の企画時におこなった参加者アンケートの結果と、今年度おこなった企画について、詳細を記載する。

1) 企画の参加者アンケート結果

① イベントを知ったきっかけ

今年度前半は、「花園町通りのイベントの SNS を見て」という参加者の割合が大きかったが、後半は「たまたま通りかかった」や「その他（もぶるラウンジ以外の場所）に設置のチラシを見て」の割合も増加した。チラシは、児童館やコムズで見て来られた方もいらっしゃったことから、もぶるラウンジ以外の場所に設置することも一定数の効果があった。「その他」は、イベント情報をまとめた web マガジンを見た方、知人からの紹介といったコメントがあった。

今後も、もぶるラウンジの SNS を用いた情報発信の強化、目を引くチラシデザインの作成等、学生企画およびもぶるラウンジを知って参加してもらう工夫を、学生スタッフと協力し取り組んでいきたい。



イベントを知ったきっかけ（人数）

②イベント参加者の来館回数

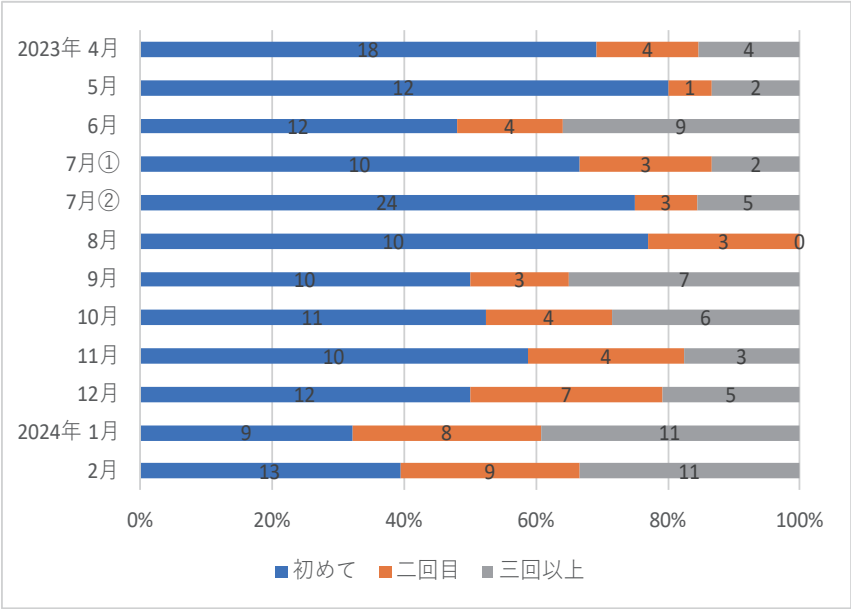
今年度は、「初めて」の方の割合が徐々に減り、「三回以上」の方が増加してきていることが分かる。前回参加時にチラシを貰って再度参加して下さる方や、何度かお見かけする方も増えてきていることから、リピーターが確実に増えてきていると感じる。

まちなかへ遊びに行く理由の一つとして、もぶるラウンジが認知され利用していただけるように、まだ届いていない層への情報発信と、何度も参加したくなる企画を、引き続きおこなっていききたい。

③企画についての要望

アンケートでは、どのような企画があれば参加したいか自由記入欄も設けている。その中で多かった意見が、「子どもと一緒に参加できるイベント」「季節に合わせたイベント」「工作」であった。その他に意見のあった「水遊び、しゃぼん玉」は7、8月、「科学実験の企画」は11月、「絵具でお絵かき」は1月に実施することができた。

今後も親子向けの季節に合わせた企画は続けていきたいが、いただいたご意見を参考にさせていただき、より幅広い方に認知し参加していただけるよう多様な企画もおこなっていききたい。



イベント参加者の来館回数（人数）

2) 企画の詳細

企画タイトル	開催日時	参加人数
みんなで作ろう！巨大こいのぼり	4月23日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	66
コケ玉をつくろう！&花を植えてみよう！ ～花園町通りに彩りを～	5月21日(日) 10:00~15:00 (「お城下マルシェ花園」と同日開催)	41
風鈴に七夕の願いを込めよう！	6月25日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	63
オリジナルちょうちんをつくろう	7月15日(土) 16:00~20:00 (「お城下マルシェ花園 サマーナイトマルシェ」と同日開催)	34
道 de 水あそび&しゃぼん玉 de あそぼう	7月23日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	94
	8月27日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	46
牛乳パックでホイッスルを作ろう！	9月23日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	47
芸術の秋を楽しむ きんちゃくに絵をかこう！！	10月22日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	37
もぶる科学実験教室～スライムをつくろう！～	11月26日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	46
キャンドルライトで光る クリスマスメッセージカードをつくろう	12月17日(土) 10:00~15:00 (「お城下マルシェ花園」と同日開催)	57
カラフル書初め	1月13日(土) 10:00~15:00	25
オリジナル凧をつくってとばそう！	1月28日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	48
レゴブロックで松山の好きを作ろう！	2月18日(日) 10:00~15:00 (「お城下マルシェ花園」と同日開催)	50
紙ねんどで遊ぼう！	2月25日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	48
ひらひらと桜舞う スノードームを作ろう！	3月19日(日) 10:00~15:00 (「お城下マルシェ花園」と同日開催)	実施予定
レゴブロックで未来の花園町を作ろう！	3月24日(日) 10:00~15:00 (「まつやま花園日曜市」と同日開催)	実施予定



4月企画 チラシ



4月企画 実施の様子



5月企画 チラシ



5月企画 実施の様子



6月企画 チラシ



6月企画 実施の様子



7月企画① チラシ



7月企画① 実施の様子



7月企画② チラシ



7月企画② 実施の様子



8月企画 チラシ



8月企画 実施の様子



9月企画 チラシ



9月企画 実施の様子



10月企画 チラシ



10月企画 実施の様子



11月企画 チラシ



11月企画 実施の様子



12月企画 チラシ



12月企画 実施の様子



1月企画① チラシ



1月企画① 実施の様子



1月企画② チラシ



1月企画② 実施の様子



2月企画① チラシ



2月企画① 実施の様子



2月企画② チラシ



2月企画② 実施の様子



3月企画① チラシ



3月企画② チラシ

(3) ラウンジ展示企画の実施

今年度より、一般市民の方にもぶるラウンジの入り口壁面や空いたスペースを利用し展示をしていただく「ラウンジ展示企画」を開始した。今年度は、5月よりほぼ毎月利用していただき、計10企画を行った(UDCM学生スタッフ企画含む)。展示の内容は、写真、絵画、イラスト、立体作品、パネル展示と幅広くご利用いただき、主催者の知人を中心に多くの方に観覧していただくことができた。また展示をきっかけに、もぶるラウンジのことを知っていただくこともできた。展示の期間中に主催者によるワークショップを行っていただくこともあった(専用利用一覧に記載)。

展示の費用は無料(交通費および展示にかかる制作費用などの必要実費は、出店者の自己負担)とし、展示方法等は主催者とUDCMディレクターで都度打ち合わせを実施し、展示のサポートを行った。

展示として利用できるスペースは限られているが、個人の作品や活動を多くの方に見ていただける場、市民の表現活動の場として、今後もプロアマ年齢問わず様々な方に利用していただけるよう、広報等にも力を入れていきたい。

ラウンジ展示企画一覧

企画タイトル	開催期間	主催
学生写真展「玉響」「anima」	5月13日(土)～6月11日(日)	UDCM学生スタッフ
「名前のない写真展」	6月16日(金)～7月16日(日)	木村 知世
「LIFE WORK ART 藤岡勝利展」	7月23日(日)～8月31日(木)	藤岡 勝利
「まちなかのイラスト展 mom no momo」	9月3日(日)～9月30日(日)	mom
「まちなかの絵画展 無常」	9月20日(日)～9月28日(木) (「mom no momo」と同時開催)	白花_Hakka
「Fish Shoes Flower 藤岡勝利展」	10月2日(月)～10月29日(日)	藤岡 勝利
「FISH 藤岡勝利展」	11月6日(月)～11月30日(木)	藤岡 勝利
「ぼめちゃんのおしごとときろく展」	12月3日(日)～12月27日(水)	ぼめちゃん
「ヒノダイゴ Slash paper art 展」	2024年 1月9日(火)～2月3日(土)	ヒノダイゴ
学生企画写真展 2023	2月5日(月)～3月31日(日)	UDCM学生スタッフ



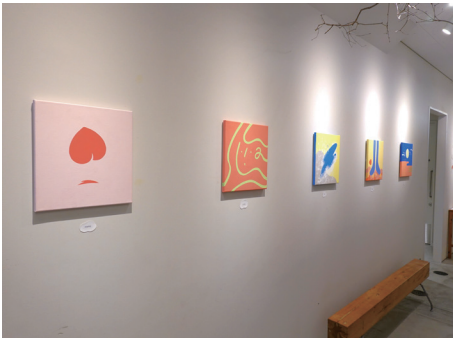
学生写真展「玉響」「anima」チラシ、展示の様子



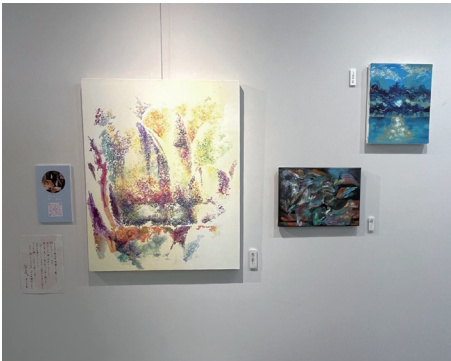
「名前のない写真展」チラシ、展示の様子



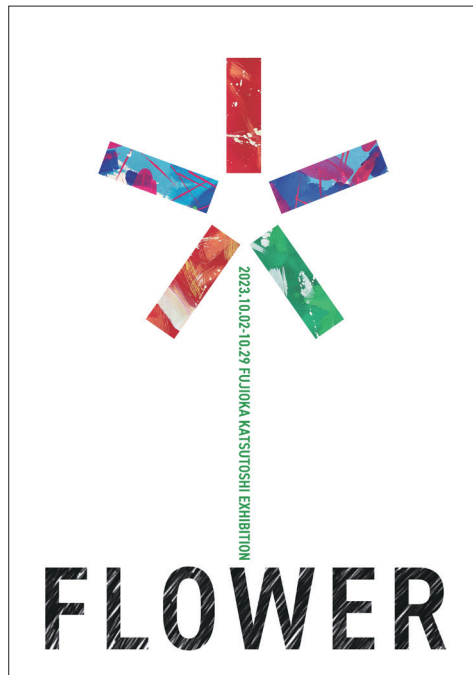
「LIFE WORK ART 藤岡勝利展」チラシ、展示の様子



「まちなかのイラスト展 mom no momo」チラシ、展示の様子



「まちなかの絵画展 無常」チラシ、展示の様子



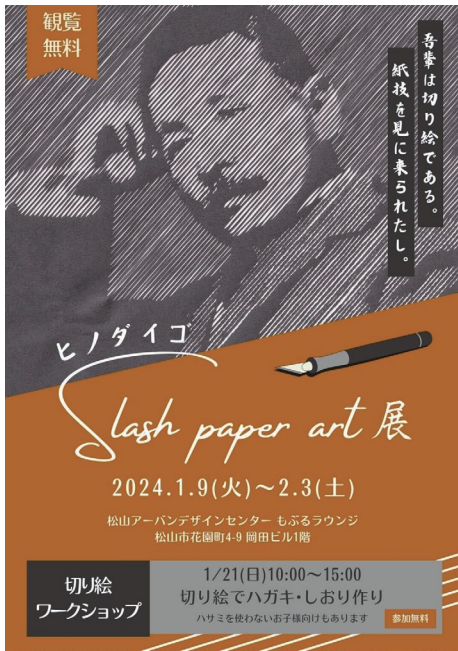
「FLOWER 藤岡勝利展」チラシ、展示の様子、
ワークショップの様子



「FISH 藤岡勝利展」チラシ、展示の様子



「ぽめちゃんのおしごとときろく展」チラシ、展示の様子



「ヒノダイゴ Slash paper art 展」チラシ、展示の様子

(4) その他企画の実施

1) 道路空間活用事業「しばスポ」

花園町通りを活用した滞留空間創出事業「しばスポ」を実施。約4m×5m程の人工芝の上に、ミカン箱を活用した起伏のある空間を創出。こどもたちが遊んだり、ごはんを食べたり、まったりしたりと、さまざまな用途で利用いただいた。また、学生スタッフ企画や、花園町通りで実施されるイベント等と連携する際には、イベントの主旨に合わせてレイアウトを変えることで、より利用しやすい空間を創り出した。



「しばスポ」実施の様子

「しばスポ」実施日一覧

日 時	連 携 イ ベ ント	備 考
2023年4月23日(日)	花 園 日 曜 市 学生スタッフ企画	
2023年5月7日(日)		悪天候により中止
2023年5月14日(日)		
2023年5月21日(日)	お城下マルシェ 学生スタッフ企画	
2023年6月18日(日)	お城下マルシェ	
2023年6月25日(日)	花 園 日 曜 市 学生スタッフ企画	
2023年7月15日(日)	お城下マルシェ 学生スタッフ企画	
2023年10月14日(日)	お城下マルシェ	
2023年10月22日(日)	花 園 日 曜 市 学生スタッフ企画	
2023年11月19日(日)	お城下マルシェ	

2) 松山アーバンデザインマップ活用企画

「松山アーバンデザインマップ」は、松山城を中心とした松山中心部のマップを書き込みができるホワイトボードの素材で製作したもので、ラウンジ内に常時掲示している。そのマップをより活用したいと考え、学生スタッフで2か月に一度テーマを決めて、利用者の方にそのテーマに合わせた書き込み、もしくは付箋に書いて貼り付けをしていただく企画を今年度6月よりおこなっている。

今年度のテーマは、6,7月「おすすめのカフェ」、8,9月「おいしいかき氷のお店と避暑地」、10月「UDweek 連携展示」、11月「秋を感じるスポット」、12,1月「おすすめラーメン店」、2,3月「おいしい和菓子屋さん」とした。学生スタッフが実際に行ったお店や食べ物は写真を撮ってきて感想コメントと一緒に掲示する等、まちなかのおすすめスポットや楽しみ方を、利用者の方にも見て知って楽しんでいただけるよう工夫した。また書いていただいた付箋は、今後冊子にまとめて、まちの情報アーカイブとして保存し公開していく予定である。



6, 7月テーマ「おすすめのカフェ」

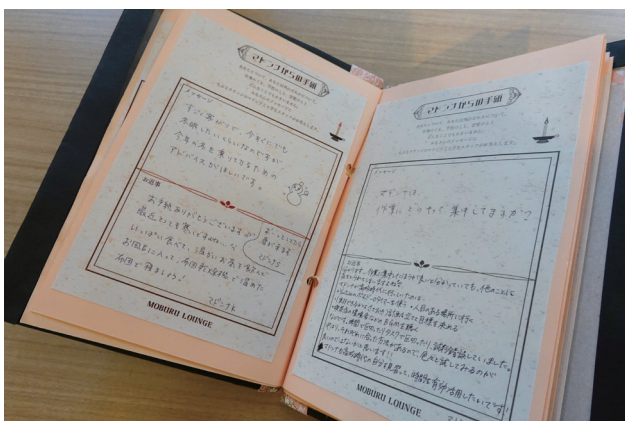


8, 9月「おいしいかき氷のお店と避暑地」

3) マドンナからの手紙

2019年にもぶるラウンジでおこなっていた企画「マドンナからの手紙」のリバイバル企画を実施した（現在も実施中）。

企画内容としては、もぶるラウンジ利用者に、質問や感想、悩み事など、誰かに聞いてほしいメッセージを専用の紙に記入してもらい、ポストに入れてもらう。それに対して学生スタッフがお返事を書き、ノートに貼って、記入した利用者や他の方にも見てもらうというものである。企画を始めて4カ月で14枚のメッセージをいただいた。特に学生や若い方が多く記入してくださっていて、お返事を見に来るということが来館理由となったり、ラウンジのリピータ利用に繋がることを期待したい。今後も単発のイベント以外にも、利用者との交流が生まれるような参加型の企画もおこなってきたい。



「マドンナからの手紙」お返事ノート



「マドンナからの手紙」設置の様子

4) オリジナルこたつの製作

もぶるラウンジや花園町通りに設置していた手作りこたつが老朽化してきたため、新しいこたつを2種類製作した。学生スタッフを中心に、デザインや機能・仕掛けなどを考え、業者の方に説明、材料（こたつ布団用の布など）はこちらで選んで購入し、製作していただいた。

①長方形のこたつ

数人でこたつを囲める大きさにした。天板をとると、雑誌を入れられるポケットがついていたり、こたつとしての利用時以外にも、使いやすいテーブルにした。普段からラウンジ内に設置しており、親子や学生の数人グループでの利用の様子がよくみられる。

②みかんこたつ

その名の通りみかんをイメージしていて、こたつ布団はみかんの房に見えるように縦にミシン目を入れていただいた。天板をひっくり返すと、オセロができたり、ホワイトボードになっていてお絵描きができるようになっており、天板の緑のペンキやオセロの駒の色はスタッフで塗り作業をおこなった。屋外に出していると目立つため、子どもや親子中心に多くの方に利用していただいた。

こたつを通して利用者の交流が生まれたり、もぶるラウンジで楽しく快適な時間を過ごしていただけるよう、今後もこのこたつを活用していきたい。



②みかんこたつ 設置、利用の様子



②みかんこたつ 設置、利用の様子



①長方形のこたつ 設置の様子

Chapter

04

研究会、研究活動

研究会は、講師の方をお招きしたアーバンデザイン研究会として、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山のレクチャーを兼ねて、計3回開催した。

- ・アーバンデザイン研究会の実施

(1) アーバンデザイン研究会の実施

2023年度のアーバンデザイン研究会は、アーバンデザイン・スマートシテイスクール松山のレクチャーを兼ねて計3回開催した。それぞれの回について、スクールTAを務めるUDCM学生スタッフのレポートをもとに振り返る。



2023.07.11

Vol.25「アーバンデザイン」

ゲスト講師：

西澤徹夫 西澤徹夫建築事務所主宰
浅子佳英 PRINT&BUILD
森純平 PARADISEAIR
益子智之 東京都立大学助教
伊藤香織 東京理科大学教授

「アーバンデザイン」をメインテーマに、5名の講師の方々をお招きし、講演いただきました。

はじめに、浅子佳英氏から、「美術館デザイン」をテーマに、八戸市美術館のラーニングセンターとしての役割や活動内容についてご紹介いただきました。その中で、地域の人々と美術館の人々が一緒に学んでいくような美術館のかたちを目指して、教える人と学ぶ人が同じ場を共有することを意識した空間づくりを行っているという話がありました。空間を「ジャイアントルーム」と「個室群」という大きく2つに分けて、複数の空間の組み合わせによって多様性を確保するという話が印象に残りました。

次に、益子智之氏からは、「地域復興デザイン」をテーマに、災害復興後の地域デザインにおいて災害伝承や復興活動そのものが観光対象となっている事例を紹介いただきました。その中で、復興博物館について

の話があり、展示の特徴として現地の被災者がどのような経験をしたのか追体験できるような展示の手法をとっているという点が印象に残りました。防災システムの確立を行いつつも、まちの人が集うような空間ができており、今後の地域デザインミュージアムを考えていくうえで参考になるような事例を、いくつも紹介していただきました。

続いて、伊藤香織氏からは、「まちを使うデザイン」をテーマに、「東京ピクニッククラブ」の活動を中心に話をいただきました。その中でも、「風景が美しいとは人々の生活が営まれているということで、パブリックライフと公共性がいいバランスをもつことがいいデザインである。パブリックライフの促進とは使いこなす人のスキル向上が不可欠で、そのためには、使いこなす人を助ける社会のサービス提供が重要である。」という話が印象的でした。公共空間をどのように使うのか、なんのために公園があるのか、空間の自由度について改めて考えさせられました。公共空間におけるにぎわいの提案として「ピクニック」の役割は大きく、伊藤氏の話を聞いていく中で私もピクニックを試みたくなりました。

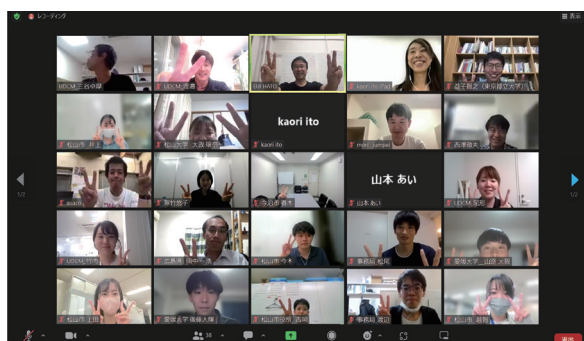
レクチャー後は、羽藤英二 UDCM センター長と5名の講師の方々によるクロストークが行われました。今回のレクチャーにおいて、まず、食という面でつながっているのではないかとということから「食」がキーワードとして挙げられました。美味しいところには人は寄っていく。浅子氏の「客が盛り上げる食べ物」はレストランが劇場であり、観客がコンテンツを作っているのだ」という話が印象的でした。次に、西澤氏は「ボランティアのような中間的存在、誰でもない人がチームとなれるかが重要であり、今回のキーワードだったのではないかと述べられました。それに対し、羽藤氏は「表面的なサービスだけでない空間、ツーリズムとして働かせるためには空気感が必要である」と述べられました。そして、益子氏からは「新しいものを受け入れるという空間の軽やかさが必要であり、愛着があれば人は存在するはずで、そういう市民性はピクニックのようなにぎわい空間で育まれるのではないかと」という意見が出ました。これに対し、伊藤氏は「そ

それぞれの人が作り出す空間とそこで作られた空間では絶対違う空間がでてきて、一期一会のようなものである。消費の体験ではなく、小さくてもいいから主体的に知っていくことが必要だ」と述べられました。

また、どのようなミュージアムをつくりたいかというテーマに対して、森氏は「計画を仕切らない、3年ごとにリセットできるような仕組みや、移動ミュージアムをつくることで関わりが変化し、火種をつけ、振り返りきっかけとなるのではないかと述べられました。これに対し、西澤氏は「火種が摩擦でおこることもある。やっていいのかわからないのが面白いのだ」と述べられました。そして、伊藤氏からは、「美しさも重要で楽しさを演じていることもある。羨ましいって思われるようにしたり、風景になるようにしたりすることで、場所の意味も変わっていくのではないかと」という話がありました。

今回のレクチャーは、講師の方のミュージアムというものに対する多様な視点を聞くとても貴重な機会となりました。ミュージアムを単なる公共施設として捉えるのではなく、地域の人々が集い、各々が自由なたちで学んだり遊んだりできるような空間としてデザインしていくことが望ましいと感じました。日本人特有の市民性を用いて、どのようにして火種をつくっていくのか、どう周りを巻き込んでいくのか、地域デザインミュージアムを作る際のヒントを得ることができました。

(TA 的場風香・高橋ひより)



開催の様子



2023.07.15

Vol.26「ミュージアムデザイン」

ゲスト講師：

上田一樹 坂の上の雲ミュージアム学芸員

関厚子 セキ美術館副館長

坂の上の雲ミュージアムにて、松山を代表するミュージアムから2名の講師の方々をお招きし、「美術館デザイン」をメインテーマにご講演いただきました。

はじめに、上田一樹氏から、「松山市立子規記念博物館」のコンセプトや展示、俳句カルタ大会などの博物館主催の活動についてご説明いただきました。「松山市立子規記念博物館」では、松山の歴史・文化や正岡子規の生涯を掘り下げた常設展のほか、投票で選ばれた子規の俳句を毎月展示するなど、四季折々の俳句を身近に感じられる工夫がされています。

続いて、上田一樹氏から、「坂の上の雲ミュージアム」がもつ3つの機能（小説「坂の上の雲」などに関する展示機能・フィールドミュージアムガイダンス機能・まちづくり支援機能）についてお話いただきました。分かりやすかつインパクトがあり、来館者が追体験できるような展示デザインとするために、イラストや、模型、音声を使った場面の立体再現、空間演出など、実例写真をふまえながらご紹介いただきました。展示機能については、限られた収蔵資料から小説の世界を楽しんでもらうために、同じ資料でも違う視点による展示を行うことで、いつ訪れても新鮮に楽しめるミュージアムをつくっているという話が印象に残

りました。

続いて、関厚子氏から、「セキ美術館」の私立美術館としての役割や展示方法についてご紹介いただきました。私立美術館の使命として、資料の保全や保管、写真撮影などをどのように行っているか、また、額縁の幅から作品の中心の位置等、作品が来館者の目に飛び込んでくるような展示方法についてお話しいただきました。今後の課題である作品の保存についても述べられ、「長い目で見るとこの先 100 年 200 年と受け継がれていく作品の“今”を預かっている。次の世代にどうつないでいくかが重要だ。」という言葉が印象に残りました。



現地会場の様子

レクチャー後は、羽藤英二 UDCM センター長と 2 名の講師の方々によるクロストークが行われました。まず、羽藤氏より、各ミュージアムによる展示方法の工夫について触れたうえで、『展示するうえでの悩みやアイデアの出し方』という話題提供がなされました。上田氏からは、「子規記念博物館」に初めて訪れる人から何度も足を運んでくださる人、両方に楽しんでもらえる展示方法の難しさについてお話しいただきました。文字資料の多い中で何を切り取り展示すれば楽しんでもらえるのか、同じ資料でもどこを切り取ればリピーターに新しい発見を感じてもらえるのかについて述べられました。それに対し羽藤氏から、「何をターゲットに展示するか、テーマを考えることでよりよい展示になるのでは」と、今後のスクール活動での 1 つのアイデアが述べられました。



クロストークの様子

さらに、羽藤氏による、『ミュージアムまわりの不随するアクティビティについて』という話題に対し、講師のお二人から、実際に松山市で行われている愛媛松山ミュージアムストリートやクーポンがついてくるスタンプラリーなど、たくさんのヒントを得ることができました。

質疑応答の時間では、受講生から「まだ光の当たっていない地域資源を見つける力はどうに養っていくのか、またそれらをどのように発信していけばよいのか」という質問が上がりました。



質疑の様子

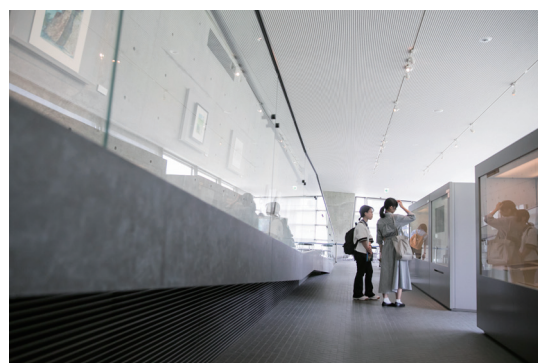
これに対し関氏から、実際に体験した話とともに、「そのとき周りの評価がなかったから、価値がなかったからと何も手を付けないのではなく、時代は変わっていくということを忘れず自分から価値を見出していくことが大切だ。」とお話しいただきました。また上田氏からは、「自分が調べていくうえで感じた驚きと発見を、形にしていく力が大切だと思う。発信方法

は昔に比べて多種多様になっているから、周りの人を巻き込みながらたくさんの人に伝えていくことが大事だ。」とお話いただきました。



講師によるコメントの様子

今回は、展示のデザインや表現を学ぶだけでなく、学芸員皆さまの展示にかける想いに触れられる大変貴重なレクチャーとなりました。地域資源を発信していくだけでなく、新しく発見し、調べ、どう周りを巻き込んで地域を盛り上げていくかが大切だと感じました。このスクールを通して、自分たちの思いを形にしていって達成感などを、受講生の皆さんと一緒に感じていきたいなと思います。(TA 井手之上采)



ミュージアムデザインを学ぶ受講生の様子



ミュージアムデザインについて話し合う様子



センター長によるコメントの様子



集合写真



2023.07.26

Vol.27「スマートシティ」

ゲスト講師：

大山雄己 芝浦工業大学准教授

西岡満代 NEC スマートシティ事業部門

上席プロフェッショナル

鈴木克宗 道路新産業開発機構

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山
2023 第3回レクチャーがzoomにて開催されました。
今回はスマートシティをテーマに、講師の方々にゲスト
トークやクロストークをしていただきました。

はじめに、大山雄己氏による『歩行者空間の計画と行動分析』と題したレクチャーがありました。まず、歩行者空間の事例として、バルセロナのスーパーブロックが挙げられました。グリッドに分けられたゾーン内の場所を歩行者空間に利用するとの説明があり、アンビシャスなプロジェクトとして注目を集めています。歩行者空間の実現は難しいように感じますが、些細なことから始めながら使い方を考えることが重要になります。

一方、歩行者空間化の課題として、モニタリングして分析を重ねることが重要だとありました。プロジェクトが導入されることによって、自動車交通量の変化や周辺交通への影響について交通量のデータで統計的に分析し、事例を集めることで歩行者空間化がしやすくなります。しかし、歩行者空間化すると交通渋滞等を引き起こすこともあります。大山氏は、悪いことが起こりうる影響とそれによって生まれる価値をトレードオフとして議論し、評価することが重要であると述

べ、公共空間の価値が合わせて議論できるようになるとの見解をいただきました。

続いて、西岡満代氏による『NECのスマートシティ〜ウェルビーイングを高める新しいまちづくり〜』と題したレクチャーがありました。世界に誇れる「地域らしい」まちの進化として、NECが取り組んでいるスマートシティを着想とした「パーパス都市経営」についての説明がありました。企業において利益を生むこと自体を目的とするのではなく、社会での存在意義を持つことができる企業活動として、「ウェルビーイング」を高めるために共有することを目標としています。事例として、公共施設を用いてウェルビーイングの向上のためにできることを住民・自治体・民間企業などのステークホルダーが富山市に集まり議論しました。子どもの食育や高齢者のフレイル予防など、身近な目線から少し未来についてロジックを積み上げながら現時点と目標の把握を行いました。また、その他の事例も踏まえ、ウェルビーイングの安心やワクワクがどのようなことに貢献するのかを想像し、新たなステージのまちづくりについてご講義いただきました。最後に、鈴木克宗氏による『バスプロジェクト』と題したレクチャーがありました。「バスタ新宿」の取り組みに関して、新宿跨線橋の架け替えにより大きい広場を作るに至った経緯と人口が密集するエリアでの整備の検討について説明がありました。モビリティ全体の枠組みとして、バスタによる高速バスへの乗り換えの選択肢が広がり、価値ある取り組みとなっているとのことでした。

さらに、地方の路線バスと地域鉄道の利用者数が右肩下がりであるという状態から、ネットワークを統合することによって機能的、そして多面的に集約することに限らず、多様なモビリティとの連携が不可欠なお話がありました。

続いて、羽藤英二氏（UDCM センター長）とゲスト講師、受講生の間でクロストークが行われました。まず、松山にバスタができることに関して、スクール受講生が取り組む地域デザインミュージアムを松山のさまざまなミュージアムと連携することで回遊のツーリズムを生み出すために、留意すべき点について議論

がされました。大山氏からは、デザインの工夫に関して、足を運んでもらい、認知してもらうために情報提供や最初の取り掛かりを大事にして欲しいとの意見がありました。西岡氏からは、新しい取り組みを行うにあたって、失敗を受容する社会に向かって一歩踏み出してほしいとの意見がありました。羽藤氏からは、回遊のツーリズムに関して、その時間をどう過ごすかフックをつけて変化を生み出し、印象を変えることで満足度を高めることが重要であるとの意見をいただきました。

また、鈴木氏から松山の公共交通の不便さや疑問点について話がありました。それに対し、大山氏から広場や歩行者空間のような利用価値のある場所にすることや、逆転の発想をしてキーとなりうる場所を探すことが重要になるとの話がありました。

前回の講義に引き続き、非常に興味深い話を聞くことができました。いよいよ、スクール受講生が本腰を入れて活動に取り組む番です。暑い中での活動となりますが、各班の活動がアーバンデザインウィークで見られることを楽しみにしています！

(TA 松尾悠馬)



開催の様子

Chapter

05

連携プロジェクト

UDCM では、非常勤のディレクターを中心に個別プロジェクトを実施している。また、UDCM の活動趣旨に合致するまちづくり活動等に対して助成金を支給する「まちづくり支援事業」を行っている。これらのプロジェクトを「連携プロジェクト」として紹介する。

- ・ まつやま歴史まちあるき
- ・ UDNM：まちづくり支援事業

(1) 松山歴史まちあるき

今後の都市のあるべき姿を検討することを目的としたメディア制作を行うプロジェクト「松山歴史まちあるき」の取り組みを行なっています。

1) 「松山歴史まちあるき（くるりん編）」の制作

いよてつ高島屋大観覧車「くるりん」からは、松山平野が一望できます。また、松山の中心市街地の区画割は、松山城築城後の1,627年から大きく変化していないのが特徴です。このような特徴を踏まえ、「くるりん」から目の前に広がる松山のパノラマと共に、坂の上の雲ミュージアム前総館長 松本啓治氏が、石手川の付替えや城下町の形成などの歴史を語った映像を、動画としてまとめました。この企画は、urban design week. と同時開催され、参加者が、「くるりん」から見える景色と合わせてYouTubeで松山の歴史を学ぶことで、松山の過去と現在が融合した新しい景色を体験する取り組みとしました。



YouTube 動画



動画で学ぶ学生スタッフの様子

2) その後の展開

urban design week. 後の新たな取り組みとして、いよてつ高島屋大観覧車「くるりん」から広がる松山のパノラマとともに、松山城、道後温泉、石鎚山など、松山の現在を紹介する新たな動画を作成しました。外国人観光客などにも楽しんでいただけるよう英語版も合わせて作成しています。もぶるラウンジで配布しているカードを持ってくるりに乗車し、YouTubeを視聴しながら松山の現在を学ぶことができます。

開催期間 / 時間
2023
10/21 - 10/29
(sat) (sun)
10:00 - 21:00
場所
いよてつ高島屋大観覧車
「くるりん」

「くるりん」から広がる松山のパノラマをご覧いただきながら坂の上の雲ミュージアム前総館長 松本啓治氏が松山の歴史を語ります。松山城は？城下町は？石手川は？過去と現在が融合した新しい景色を体験してください。
(ご自身のスマホにより歴史解説動画(Youtube)を視聴していただきます。)



配布カード



YouTube 動画
【日本語版】



YouTube 動画
【英語版】

(2) UDNM：まちづくり支援事業

1) 概要

UDNM では、まちづくり活動や調査研究活動の実践能力向上を目的として、UDCM の活動趣旨に合致するまちづくり活動等に対して助成金を支給しています。2023 年度は昨年度に引き続き、「NPO 団体 イイトコ道後」に当制度が活用されました。本項目では、イイトコ道後の活動について報告します。

2) 活動報告

夕焼けベンチ+裏道後ツアー

2018 年度アーバンデザインスクール卒業生が立ち上げた NPO 団体イイトコ道後による企画です。スクール受講生としての活動終了後も、NPO を立ち上げ、道後・上人坂を中心に活動しています。立ち上げメンバーは大学卒業と共に団体からは離れましたが、後輩メンバーがその思いを引き継ぎ、活動を継続しています。今回 UDweek. プログラムとして実施した夕焼けベンチには 11 名、裏道後ツアーには 4 名が参加しました。UDNM まちづくり活動支援事業として、イイトコ道後のプログラム支援を行いました。

【概要】宝厳寺境内に設置するオリジナルベンチに座り、坊っちゃん団子の食べ比べをしながら夕焼け観賞を楽しむプログラム。夕焼け鑑賞後におこなうツアーでは、宝厳寺・上人坂と文豪たちとの関わりや、上人坂の歴史や伝説などについてメンバーが解説。

会期：2023 年 10 月 27 日（金）
会場：道後・宝厳寺境内および上人坂
時間：16 時 30 分～18 時 30 分

【活動レポート】

NPO 団体 イイトコ道後
(松山東雲女子大学 3 年 阿河優里)

1. 企画の背景と目的

道後は愛媛県の有名な観光地であり、道後温泉本館や道後商店街は人通りが多く観光客などでにぎわっている。一本外れた通りにはかつて道後の色町として栄



企画フライヤー

えていた「上人坂」や、一遍上人の生誕地である「宝厳寺」、湯の大地蔵尊が存在する「円満寺」など歴史深い場所や情緒あふれる雰囲気味わえる場所が点在する。さらに、上人坂は道後商店街といった人通りの多さとは一風変わり、自然が残る穏やかな静かな場所である。このことから私たちは、歴史を伝える上人坂にある潜在的な良さである自然を観光客の人だけでなく松山に住む地元の人に知ってもらうことで、この地域の活性化と同時に道後地域の新たな魅力の構築にも導くことを目的に企画を開催した。

2. 企画内容

夕焼けベンチ in 宝厳寺

- ベンチ作りワークショップで作成したベンチを宝厳寺に設置して夕焼けを鑑賞



開催当日の様子

- 温かいお茶と道後で作られている3店舗（巴堂、つばや菓子舗、白鷺堂）の坊ちゃん団子を用意（各回先着20名様）
- 食べ比べしてもらいお気に入りの坊っちゃん団子を見つけてもらう
- パネルにシールを貼って気に入った坊っちゃん団子の投票をしてもらい、付箋に感想も書いてもらう

知られざる裏道後ツアー

- 円満寺や宝厳寺、上人坂、裏道を案内、上人坂今昔マップを用いて説明しながら参加者と一緒に歩いて回遊する



裏道後ツアー開催の様子

3. 成果と課題

イベント後には、参加者の感想と満足度・改善点などを調査するためにアンケートを行い、11人の方に答えていただきました。夕焼けベンチと知られざる裏道後ツアーの満足度は5段階のうちの最上の「満足」と回答した方が90%で、「普通」と回答した方が、10%という結果になりました。また、イベントの感想では「3種類の食べ比べの説明などが有り難かった」や「案内してくださった学生の方々は、地域のことを学んでいらして、道後を心から好きなんだな、ということが伝わってきました。皆さんとても清々しく、道後を中心に松山、愛媛県に好印象をもちました。」というお言葉をいただきました。これらの感想から、当初の目的であった『たくさんの人に道後の隠れた魅力を伝え、知ってもらい、広めること』が達成できたのではないかと考えています。これらを含めイベント全体を通して、上人坂・宝厳寺に足を運んでもらえるきっかけ作りや、まちの方々と今後につながる関係を築くことができました。その一方で、イベント集客の難しさを実感しました。今後は、道後温泉旅館共同組合だけでなく道後商店街復興組合、道後誇れるまちづくり推進協議会の方々とともに上手く連携をとりながら広報を行っていきたいです。

4. ご協力いただいた皆さま

長岡陽子さま（宝厳寺住職）／山澤満さま（山澤商店）／白鷺堂さま／巴堂さま／つばやさま／道後温泉旅館協同組合（観光案内所）さま／ひみつジャナイ基地の皆さま／シナモンゲストハウス道後さま／道後温泉事務所の皆さま／UDCMの皆さま



イトコ道後メンバー

資料

- ・ 活動履歴
- ・ 委員 / 講演 / 視察対応等
- ・ UDCM 運営体制

活動履歴

2023年4月

- 13(木): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #1
- 14(金): 第24回都市再生協議会(書面開催)
- 16(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 17(月): (株) 日建設計、(株) 日建設計総合研究所 視察対応
- 18(火): UDCM 運営会議 #1
- 23(日): まつやま花園日曜日(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 23(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「みんなで作ろう! 巨大こいのぼり」開催
- 27(木): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #1
- 28(金): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #2

2023年5月

- 1(月): 愛媛県立松山南高等学校 取材対応
- 7(日): しばスポ de ころころ DAY 開催
- 13(土): もぶるラウンジ展示企画 学生写真展「玉響」「anima」開催(～6/11)
- 14(日): しばスポ de ころころ DAY 開催
- 15(月): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #3
- 16(火): オノコボデザイン(合) 視察対応
- 17(水): UDCM 運営会議 #2
- 17(水): UDNM 総会
- 21(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 21(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「コケ玉をつくろう!」「花を植えてみよう! ～花園町通りに彩りを～」開催
- 27(土): まつやま花園砥部焼まつり(主催: 砥部焼まつり実行委員会) 開催支援
- 27(土): 第29回土木学会四国支部技術研究発表会(三谷共著)
- 28(日): まつやま花園砥部焼まつり(主催: 砥部焼まつり実行委員会) 開催支援

2023年6月

- 7(水): クリチバ市 視察対応
- 10(土): 2023年度春季HCD研究発表会(三谷共著)
- 14(水): ロンドン大学(修士研究) 取材対応
- 16(金): もぶるラウンジ展示企画「名前のない写真展」開催(～7/16)
- 18(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 20(火): UDCM 運営会議 #3
- 25(日): まつやま花園日曜日(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 25(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「風鈴に七夕の願いを込めよう!」開催
- 28(水): アーバンデザイン・スマートシティスクール 2023 ガイダンス
- 28(水): 松山市駅前広場整備への想いを届けるワークショップ(主催: 松山市駅前商店街会) 開催支援

2023年7月

- 3(月): 第9回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 参加(三谷)
- 8(土): 松山アーバンデザインスクール卒業生企画「Summer Festival in 上人坂」開催

- 11(火): アーバンデザイン・スマートシティスクール 2023 第1回レクチャー「アーバンデザイン」
- 14(金): 門真市 視察対応
- 15(土): アーバンデザイン・スマートシティスクール 2023 第2回レクチャー「ミュージアムデザイン」
- 15(土): まつやま花園土曜夜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 15(土): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「オリジナルちょうちんをつくろう!」開催
- 16(日): 「魅せたい写真を撮る方法」開催 主催: 木村知世(「名前のない写真展」)
- 18(火): 第25回都市再生協議会
- 19(水): UDCM 運営会議 #4
- 21(金): 阿南工業高等専門学校 視察対応
- 23(日): もぶるラウンジ展示企画「LIFE WORK ART 藤岡 勝利展」開催(～8/31)
- 23(日): まつやま花園日曜日(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 23(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「道 de 水あそび&しゃぼん玉 de あそぼう」開催
- 25(火): 積水樹脂(株)・(株) ジイケイ 京都 視察対応
- 26(水): アーバンデザイン・スマートシティスクール 2023 第3回レクチャー「スマートシティ」発表(三谷)
- 27(木): 日立市 視察対応
- 29(土): まつやま花園ビアフェスタ(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 31(月): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #4

2023年8月

- 1(火): 建設再整備に関する四者協議 参加 #1(三谷・山之内)
- 17(木): 板橋区 視察対応
- 22(火): アーバンデザイン・スマートシティスクール 2023 プラン発表会
- 22(火): さいたま市長 視察対応
- 22(火): UDCM 運営会議 #5
- 27(日): まつやま花園日曜日(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 27(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「道 de 水あそび&しゃぼん玉 de あそぼう」開催

2023年9月

- 3(日): もぶるラウンジ展示企画「まちなかのイラスト展 mom no momo」開催(～9/30)
- 4(月): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #5
- 5(火): 清水建設(株)、(株) 山下 PMC 視察対応
- 13(水): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #6
- 14(木): 京浜急行電鉄(株) 視察対応
- 15(金): 浜通り地域デザインセンターなみえ 視察対応
- 17(日): 「大工さんと一緒に イスづくり体験しませんか?」開催
- 17(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 19(火): UDCM 運営会議 #6
- 19(火): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg #7
- 20(水): もぶるラウンジ展示企画「まちなかの絵画展 無常」開催(～9/28)
- 21(木): 大手前通り街づくり協議会 視察対応

24(日): まつやま花園日曜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
 24(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「牛乳パックでホイッスルをつくろう!」開催
 28(木):(株)Groove Designs 視察対応

2023年10月

2(月): もぶるラウンジ展示企画「Fish Shoes Flower 藤岡 勝利展」開催(～10/29)
 3(火): 富山経済同友会 視察対応
 11(水): 建設再整備に関する四者協議 参加 #2(大山・山之内)
 11(水): えひめ公共交通の会(三谷発表)
 15(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
 20(金): 昭和(株) 視察対応
 21(土): 滞留空間創出事業「まちなか mini HiROBA」開催(～10/29)
 21(土): 都市回遊型社会実験『urban design week.2023』の展示・企画実施(～10/29)
 21(土): 松山歴史まちあるき(くるりん編) くるりんからの松山歴史解説 公開
 22(日): まつやま花園日曜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
 22(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「きんちゃくに絵をかこう!」開催
 27(金): 歩いてくらせるまち松山「市駅前広場「つなぐ」ワークショップ vol.1(主催: 松山市 都市整備部 都市・交通計画課) 参加(尾形)
 28(土): 東京大学 視察対応
 29(日): 「Fish Shoes Flower ワークショップ」開催(主催: 藤岡勝利)
 30(月): 第10回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 参加(三谷)
 31(火): NEC 秋季総会 視察対応

2023年11月

6(月): もぶるラウンジ展示企画「FISH 藤岡 勝利展」開催(～11/30)
 6(月): KPMG コンサルティング(株) 視察対応
 7(火):(株) 中央建設コンサルタント 視察対応
 8(火): UDCM 運営会議 #7
 9(木):(一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 視察対応
 10(金): 関西大学 視察対応
 16(木): 第26回都市再生協議会
 19(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
 20(月): 四日市市 視察対応
 21(火): 大牟田市 視察対応
 25(土): 第11回アーバンデザインセンター会議 in 信州 参加(竹内仁・尾形)
 25(土): 第69回土木計画学研究発表会(三谷共著)
 26(日): まつやま花園日曜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
 26(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「もぶる科学実験教室 スライムをつくろう!」開催
 26(日): 第69回土木計画学研究発表会 発表(三谷・渡邊)

27(月): 東雲女子大学 授業協力

2023年12月

3(日): もぶるラウンジ展示企画「ぼめちゃんのおしごとときろく展」開催(～12/27)
 11(月): UDCM 運営会議 #8
 13(水): 歩いてくらせるまち松山「市駅前広場「つなぐ」ワークショップ vol.2(主催: 松山市 都市整備部 都市・交通計画課) 参加(渡邊・尾形)
 15(金): NTT アーバンソリューションズ(株) 視察対応
 17(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
 17(日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「キャンドルライトで光るクリスマスメッセージカードをつくろう!」開催
 22(金): 立命館大学、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 視察対応
 22(金): 内閣府スマートシティ施策のKPI設定指針のワークショップ 参加(三谷・尾形)
 23(土): 「造形遊びワークショップ」開催(～12/24) 主催: ぼめちゃん
 24(日): まつやま花園日曜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
 26(火): 松山外環状道路高架下利用計画ワークショップ(主催: 国土交通省 四国地方整備局 松山河川国道事務所) 参加(尾形)

2024年1月

19(火): もぶるラウンジ展示企画「ヒノダイゴ Slash paper art展」(～2/9)
 15(月): 愛媛大学教育学部附属小学校3年生 授業協力「松山市駅のこれまでとこれから」
 16(火): UDCM 運営会議 #9
 24(水): 歩いてくらせるまち松山「市駅前広場「つなぐ」ワークショップ vol.3(主催: 松山市 都市整備部 都市・交通計画課) 参加(渡邊・尾形)
 26(金): 愛媛大学教育学部附属小学校3年生 授業協力「松山市駅まちあるき」
 27(土): だんだん複業団 視察対応
 31(水): 松山市立潮見小学校6年生 授業協力「松山の戦災復興」

2024年2月

2(金): 愛媛大学教育学部附属小学校3年生 授業協力「松山市駅はなぜ今も変わり続けているのだろう」
 5(月): 建設再整備に関する四者協議 参加 #3(大山・山之内・片岡・渡邊)
 5(月): もぶるラウンジ展示企画「学生企画写真展 2023」(～3/31)
 9(金):(公財)九州経済調査協会 視察対応
 13(火): 国土交通省 視察対応
 14(水): 佐賀市 視察対応
 16(金): 松山市立潮見小学校6年生 授業協力「戦後の日本の発展」
 18(日): お城下マルシェ花園(主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
 20(火): 松山市立潮見小学校6年生 授業協力「今後の日本の発展」
 21(水): UDCM 運営会議 #10
 25(日): まつやま花園日曜市(主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
 29(木):(株)NTT データ経営研究所 視察対応

委員 / 講演 / 視察対応

〈委員〉

- 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会（委員）：渡邊
- 松山市松山都市圏総合都市交通計画協議会（委員）：三谷

〈講演〉

- えひめ公共交通の会@三井住友海上松山ビル
「データを活用した意思決定の重要性」：三谷
- スマートシティ官民連携プラットフォーム 令和5年度第3回オンラインセミナー@オンライン
「スマートシティ実装のためのデジタルリテラシーの向上」：三谷
- 愛媛大学教育学部附属小学校3年生 @ 附属小学校
「松山市駅のこれまでとこれから」：渡邊
- 松山市立潮見小学校6年生 @ 潮見小学校
「新しい日本、平和な日本へ～松山の戦災復興から考える～」：渡邊

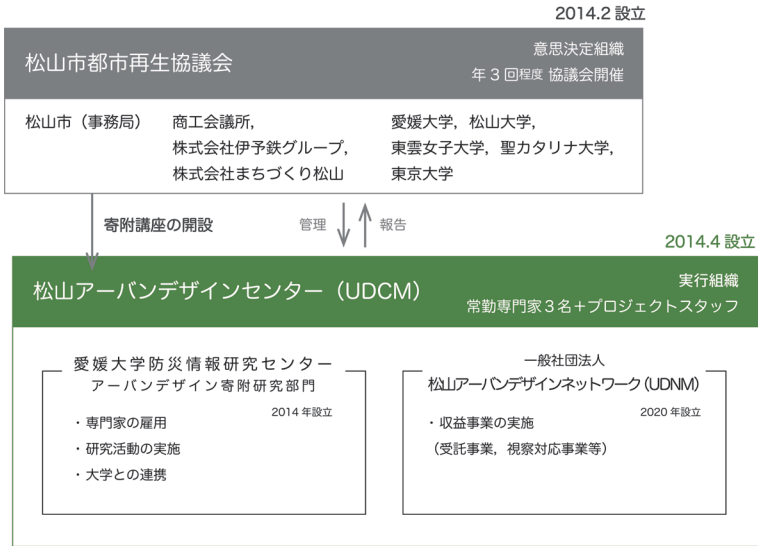
〈視察対応〉

① UDNM 視察対応事業

- | | |
|---|---|
| ● 株式会社日建設計、株式会社日建設計総合研究所
_6名, 2023.4.17（月） | ● 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
_16名, 2023.11.9（木） |
| ● 愛媛県立松山南高等学校_4名, 2023.5.1（月） | ● 関西大学_2名, 2023.11.10（金） |
| ● オノコボデザイン合同会社_8名, 2023.5.16（火） | ● 四日市市_11名, 2023.11.20（月） |
| ● クリチバ市_7名, 2023.6.7（水） | ● 大牟田市_2名, 2023.11.21（火） |
| ● ロンドン大学_1名, 2023.6.14（水） | ● 東雲女子大学_20名, 2023.11.27（月） |
| ● 門真市_2名, 2023.7.14（金） | ● NTTアーバンソリューションズ株式会社
_14名, 2023.12.15（金） |
| ● 阿南工業高等専門学校_5名, 2023.7.21（金） | ● 立命館大学、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ
_3名, 2023.12.22（金） |
| ● 積水樹脂株式会社・株式会社ジイケイ京都
_9名, 2023.7.25（火） | ● 愛媛大学教育学部附属小学校_31名, 2024.1.15（月） |
| ● 日立市_1名, 2023.7.27（木） | ● だんだん複業団_18名, 2024.1.27（土） |
| ● 板橋区_2名, 2023.8.17（木） | ● 松山市立潮見小学校_114名, 2024.1.31（水） |
| ● さいたま市_5名, 2023.8.22（火） | ● 株式会社NTTデータ経営研究所_5名, 2024.2.6（火） |
| ● 清水建設株式会社、株式会社山下PMC
_6名, 2023.9.5（火） | ● 公益財団法人九州経済調査協会_3名, 2024.2.9（金） |
| ● 京浜急行電鉄株式会社_2名, 2023.9.14（木） | ● 大阪工業大学_3名, 2024.2.10（土） |
| ● 浜通り地域デザインセンターなみえ_3名, 2023.9.15（金） | ● 国土交通省_1名, 2024.2.13（火） |
| ● 大手町通り街づくり協議会_20名, 2023.9.21（木） | ● 佐賀市_1名, 2024.2.14（水） |
| ● 株式会社Groove Designs_1名, 2023.9.28（木） | ● 株式会社NTTデータ経営研究所_5名, 2024.2.29（木） |
| ● 富山経済同友会_26名, 2023.9.28（木） | |
| ● 昭和株式会社_10名, 2023.10.20（金） | |
| ● 東京大学_6名, 2023.10.28（土） | |
| ● NEC 秋季総会_15名, 2023.10.31（火） | |
| ● KPMG コンサルティング株式会社_12名, 2023.11.6（月） | |
| ● 株式会社中央建設コンサルタント_4名, 2023.11.7（火） | |

運営体制

〈組織構成〉



〈スタッフ〉

センター長	羽藤 英二（東京大学）	（※は常勤スタッフ）
副センター長	松村 暢彦（愛媛大学）	
	羽鳥 剛史（愛媛大学）	
ディレクター	三谷 卓摩（愛媛大学）※	
	渡邊 浩司（愛媛大学）※	
	竹内 仁美（愛媛大学）※	
アシスタントディレクター	日野 順子（愛媛大学）	
	尾形 愛実（愛媛大学）	
事務スタッフ	大野 利恵（愛媛大学）	
	竹内 加寿美（愛媛大学）	
プロジェクトディレクター	片岡 由香（愛媛大学）	
	四戸 秀和（愛媛大学）	
	石飛 直彦（復建調査設計）	
	松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム）	
	小野 悠（豊橋技術科学大学）	
	山之内 崇（いよぎん地域経済研究センター）	
	園部 修也（愛媛銀行ひめぎん情報センター）	
	伊藤 香織（東京理科大学）	
	大山 雄己（芝浦工業大学）	
	河内 俊樹（松山大学）	
アドバイザー	高峯 聡一郎（国土交通省都市局）	
プロジェクトサポート学生スタッフ	川中 榛名 松尾 悠馬	
	高橋 ひより 的場 風香	
	山路 大智 渡辺 幸大	
	内田 智尋 山本 まゆ香	
	花本 悠輔 八木 翔梧	
	山地 桃加 近藤 美咲	
	井手之上 采 進藤 小雪	
	山下 真奈実 片山 暁斗	
	柳田 恵利	

